

学校だより

Vol. 97

2014.11



Contents

- 02 校長 入学式辞
- 04 就任あいさつ
- 05 三主事・専攻科長あいさつ
- 06 各科の近況
- 09 インターンシップ報告
- 16 English Camp in Singapore
福島高专地域フォーラム
「地熱発電及び地中熱利用について」
- 17 1日体験入学を終えて
- 18 学生の活躍
- 22 クラブ活動紹介
- 24 新任教職員紹介
- 26 ミニ研究発表会
- 27 校内体育大会





第五十三回 入学式

第五十三回入学式 及び 平成二十六年編入学 並びに 第十一回専攻科入学式式辞

福島工業高等専門学校長 中村 隆行



新入学生二百十名、留学生二名を含む編入学生四名、専攻科生二十八名の皆様の福島高専へのご入学をお慶び申し上げます。誠にありがとうございます。

また、ご列席の保護者の皆様、お子様のご入学を心からお祝い申し上げます。

例年になく寒かった冬が過ぎ、春の暖かい風を感じる季節になりました。本校、構内の桜の木も、春を待ちかねるように開花し始めました。その花の下で、本日、多数の新入学生諸君を福島高専にお迎えすることを、教職員、在校生一同、大変喜ばしく存じております。



皆さんが入学した福島高専は、昭和三十七年、国立工業高等専門学校の第一期校として、他の十一の高専と共に創立されました。本日、入学した皆さんは本校への第五十三回目の入学生となります。また、平成十六年に、すべての国立高専が一つの独立行政法人「国立高等専門学校機構」として法人化され、今年で十一年になります。現在、福島高専を含む五十一の国立高専が、五十五のキャンパスで運営されています。この間、本校から、およそ七千六百名の創造性と実践性を併せ持つ卒業生・修了生が巣立ち、さまざまな産業分野で活躍しています。本日、入学した諸君も、地域の震災からの復興と新しい日本の創生のために、先輩たちに負けず活躍ができるよう、本校でしっかりと勉学を積み重ねるとともに、人間力を育成してください。



福島高専では、皆さんが勉強するにあたり、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業時に身につけるべき能力などをきめ細かく定めています。

本校の教育理念の第一は、「広く豊かな教養と人間力の育成」です。本日、入学した皆さんの多くは、将来、技術

者となりますが、技術者は、自らの技術力で作りあげたものが、社会にどのように役立ち影響を及ぼすのかをよく理解する必要があります。これに資する教養と倫理観を身につけることが大切です。本校の教育理念の第一は、技術以前に、幅広い教養と人間力を養うということです。

教育理念の第二は、「しっかりした基礎力に基づく創造性と実践性の育成」です。卒業後、幅広い分野で活躍できる実践的、創造的な技術者となるためには、基礎知識に裏打ちされた柔軟な発想・企画力を保有する人材となる必要があります。現場、現物、現実を踏まえて、総合的な判断の下に、複合的に絡み合う課題の解決や社会のニーズに応える能力を育成することが肝要です。皆さんには、創造性と実践性を兼ね備え、新たな産業を起こしうる人材に育ってほしいと思っています。これが、教育理念の第二です。

教育理念の第三は、「国際性とコミュニケーション能力の育成」です。グローバル化に伴う国際競争の激化に伴い、我が国を取り巻く状況は激変してきています。また、世界における我が国の状況・立場も、新興諸国の台頭により衰退の一途をたどっているとの指摘もあります。このような背景を踏まえ、皆さんには英語力を向上させることは言うまでもなく、英語で自分の意見を言い、異なった環境に住む相手の考え方を理解した上でその相手とディベートできる能力を育成してほしいと思います。今後、皆さんが、世界で活躍するためには、この素質を育成することが重要と思っています。これが、教育理念の第三です。

このような教育理念の下に、六項目の学習・教育目標を定め、さらに、個々の目標の具体的な項目を掲げていますので、担当の先生などから詳しく説明を聞いてください。なお、本校の専攻科までの工学系カリキュラムである「産業技術システム工学」プログラムは、日本技術者教育認定機構(英語表記の頭文字を並べてJABEEと呼んでいます)から、世界水準の大学教育プログラムであることが認定されています。

さて、これからの五年間、皆さんは次の四つの点を念頭において勉強してください。

まず、第一に、学校で定められた規則・規律を守り、皆が学校で快適に生活できるように努力してください。

第二に、授業で教えてもらうのではなく、自ら疑問を持ち、自ら調べ、わからないところを授業で質問して確認する姿勢を保ってください。皆さんは、目的を持って、この福島高専に入学してきたはずです。社会に出て専門分野で活躍したい、または、大学や大学院に進学してさらに専門分野を磨きあげたいなどの目的を持っているはずです。その目的に向かって自ら学習する姿勢を保ってください。皆さんは、中学校では、受動的に授業に出てさえいればその授業について行けたかと思います。しかし、高専では、自宅に戻ってから予習や復習を行わない限り、勉強について

いくことは困難です。勉学の動機を失わずに、目標を決めて能動的に勉強してください。

第三に、課外活動を楽しんでください。文化部やスポーツ部に所属し、集団や組織での活動能力やコミュニケーション能力を身につけてください。

第四に、何でも語り合える友人を作ってください。高専在学中の友人やクラスメート、クラブ活動の仲間は、一生の友人になりますし、これらの友人によって皆さんの人間力も育かれます。

本日入学した皆さんのために、福島高専は、卒業後の様々な進路を提供しています。五年間の課程を終えて、準学士の称号をもって就職することもできますし、本校の専攻科へ進み、大学卒と同じ学士の学位を得ることもできます。また、大学の三年生への編入学への道や、高専卒業生のための大学である技術科学大学へ進学して、修士または博士までの工学一貫教育を受ける道もあります。今から、保護者と相談して自分が進む道を見据えながら、日々健康に気を付けて、夢と希望を持って勉学に励んでください。

次に、専攻科への入学生諸君。諸君は、本科五年間で修得したことを基礎に、さらに高度な基礎科目と専門科目を学ぶこととなります。専攻科二年の課程を終え、学位審査に合格すると、大学評価・学位授与機構から大学卒業と同じ学士の学位を得ることが可能です。

東日本大震災から早くも三年が過ぎましたが、福島高専では、震災や津波からの街の復興、並びに、福島県が目指す原子力依存からの脱却と再生可能エネルギーによる産業振興の支援のために、再生可能エネルギー、原子力安全及び減災工学の三分野で、教育・研究を行うべく、専攻科に復興人材育成特別コースを設けています。

東日本大震災による被害を、身を以て経験した諸君ですから、復興人材育成特別コースを選択するか否かにかかわらず、専攻科で自らが学んだ知識をもって、どのように地域復興に貢献できるかをイメージしながら勉学に励んでください。

また、グローバル化の時代にあって、国際感覚を身につけることは必須です。是非、海外インターンシップなどにも挑戦してください。さらに、最近の産業分野では、工業技術の大型化や高度化によって修士レベルの能力も必要とされる場合があります。これらの様々な観点から将来の自分を考えて、学習計画をたててください。専攻科生として十分な知識と教養を身につけることができるよう、また、後輩の良き手本となるように日頃から勉学に励んでください。

最後に、新入学生諸君全員には、日々健康に気を付けながら、勉学や人間形成に励み、本校を巣立つまでに大きく成長して、社会に、大学に、大学院に進んでいけるよう祈念して式辞といたします。

就任あいさつ

福島工業高等専門学校 校長

中村 隆行

この四月に校長に就任して以来、はや六か月が経ちました。就任早々、校長の方針を明快な言葉に表す必要があると考え、「いわきから世界に活躍するイノベーション人材を育てる」を、当面のスローガンとすることにしました。

これには、三つの視点があります。一つは、グローバル化が進んで世界が小さくなり、様々なことが日本だけで完結しない時代になってきています。これから日本を背負う若者は、世界の人たちと情報交換をし、あるいは国際会議などの場でしっかりと意見を伝えることが出来るなど、「世界に活躍する」ということが求められてきています。それから、産業構造が変わり、情報化が進む中で、資源のない日本は付加価値を高める産業を興していかなければなりません。そのためのアイデアの出る人材を輩出していかなければならないという意味で「イノベーション」です。もう一つ重要なのは、「いわきから」という視点です。本校はもともと地元根ざした高専として発展してきました。これからも地域のニーズに応えていきたいと考えています。とりわけ、東日本大震災から三年半が経ちましたが、震災復興のニーズ、特に事故を起こした福島第一原子力発電所の廃炉には数十年かかると言われており、そういったことを担える人材を育てることも重要な課題の一つと考えています。

具体的には、東日本大震災からの地域の復興を支援すべく、再生可能エネルギー、原子力安全及び防災・減災の三分野で、復興人材育成事業を実施し、通常の高専生が学習することに加えて、福島高専生には、これら三分野の素養(私は環境リテラシーと呼んでいます)を身に付けることができるカリキュラムを用意しています。この取組みに加え、今年度は、八月に文部科学省の「国家課題対応型研究開発推進事業(廃止措置等基盤研究・人材育成プログラム委託費)」に、高専としては唯一本校が採択(フィージビリティ・スタディ)されました。また、九月に福島県とその周辺地域の防災・減災の推進、復興支援を実施するため、東北大学災害科学国際研究所と連携協力のための調印を行いました。

これらの外にも、十月にオーストラリアのタウンズビル市(いわき市の姉妹都市)にあるジェームズ・クック大学と、国際協力のための包括連携協定を結びました。さらに、本校の国際化を更に推進するため、海外でのインターンシップの充実・拡大に努めるとともに、国際関係を担当する事務職員の配置、学生・教職員の英会話などのコミュニケーション能力の向上に努めたいと考えています。

また、来年四月からは、現在の機械・電気システム工学専攻と物質・環境システム工学専攻を一本化させ、産業技術システム工学専攻とし、その下に四つのコースを設置する予定です。さらに、学科の改組についても、時代の変化に即応すべく、現在コミュニケーション情報学科をはじめとして鋭意検討を進めているところです。

関係者の皆様方には、今後の福島高専の在り方について、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。





アクティブラーニング

教務主事
青柳 克弘

成績不良の学生(特に低学年)への対応の手始めとして、本校では、今年度から数学科の先生方において1年生の一部の学生に「数学演習」という補講

を始めました。授業時間割にも組み込んでいます。多くの受講者は、入学直後に行った試験よりも中間試験の順位の方が高くなる傾向が見られましたが、なかなか成果が上がらない学生もいました。期末試験の結果も踏まえ分析してみたいと思っていますが、学習意欲の問題はどうしてもついて回ってきます。今、最も注目されている学習意欲を向上させる方法の1つが、アクティブラーニング(学生が主体的に問題を発見し解を見出していく能動的学び)です。現在の高専教育におけるキーワードの1つでもあり、今年度の全国高専教育フォーラムや東北地区教員研究集会のメインテーマとしても取り上げられました。ある程度基礎を修得した上級生の教育に取り入れている報告が多い中、グループワークによる低学年の数学での成功例もありました。「やる気」を起こさせる方法として、通常の授業の中に「教員による一方的な講義形式」ではなく、この手法を取り入れる教育機関はさらに増えていくように思います。本校でもこの手法の検討を含めて、さらなる教育改善に努めてまいります。



課外活動のご紹介

学生主事
宮澤 泰彦

この夏、不注意から2ヶ月あまりを仰臥して過ごす羽目となり、各方面に多大なご迷惑をおかけしました。多忙な中で精神と肉体のバランスを欠いていたと言わざるを得ません。健康と安全への過信

と自覚不足を反省しています。

さて、前期は例年にも増して学生諸君のがんばりが目立ちました。高野連地区大会での野球部の活躍は、県大会での選手宣誓と併せて注目を集めました。東北地区高専体育大会は八戸と本校との共催となり、全校挙げてのご支援のおかげで、多くの種目で全国大会に出場することができました。四国で開催された全国大会では、卓球部男子が団体と個人戦シングルスにおいて見事優勝を成し遂げました。さらには、難関であるインターハイや国体、そして全日本選手権へ、県代表として出場権を得た学生もいます。文化部や研究部も、各種コンテストやイベントで大活躍しました。知能ロボコンのチャレンジコース優勝と最優秀技術賞獲得も、特筆すべきことです。

いずれも休日返上の努力の成果であり、勉強と部活動とを立派に両立させている人が少なくないことに感心させられます。心身の鍛錬が習慣化され、自信と集中力が培われた故に相違ありません。一方、ゲームなどの刹那的楽しみに依存してしまう人も多く、部活動加入率は年々低下しています。低学年の制服の着こなしにも、一部品格を疑わざるを得ない者が散見されるのも残念です。人間形成の要となる時期です。自らの成長のため真に価値あることに早く目覚めて、充実した日々を送ってくださることを望みます。



安全で快適な寮へ

寮務主事
笠井 哲

今年度から寮務主事を務めています、笠井です。よろしくお願い致します。東日本大震災から、3年半が経過しました。現在、耐震性の低い「管理棟・こ

ずえ棟」に、耐震補強・断熱改修を行っています。他に特筆すべきは、8月9日に立ち上げた「警陽寮保護者会」が、リース会社と契約を結び、全居室のエアコン設置工事が始まり、今年の冬の暖房から使用できる運びとなることです。

また、震災後の行事の見直しとして、昨年度と同様に「新入寮生歓迎行事」は、「カレー大会」を実施しました。直前に、近隣のスーパーが閉店するアクシデントに見舞われながら、少し離れた別のお店に交渉し、食材を届けてもらうという知恵で乗り越えました。寮生たちの生活力は、素晴らしいです。

さて、4月に赴任された中村隆行校長が、警陽寮の視察を希望され、5月8日(木)に宿直をしました。当日、校長は寮生たちと直にお話もされ、たいへん有意義であったようです。今後も、折を見て泊りをされる予定です。もちろん寮務委員会も、寮生たちの声を聴き、物心両面で安全で快適に生活ができる寮の環境づくりに取組みますので、よろしくお願い申し上げます。



専攻科の近況

専攻科長
大槻 正伸

今年度は、専攻科に1年生28名、2年生31名が在籍し、勉学、研究に励んでおります。

1年生は、7月の第1回特別研究発表会で、各自今後の研究の方向について発表しました。また、今年度は、昨年に引き続き、多くの学生が海外インターシップに行きます(フランス12名、中東2名、オーストラリア2名の予定です)。逆に海外からの学生受入れは、この4月~6月の3カ月間フランスの学生を3名受入れました。今後も多くの専攻科生が海外インターシップを経験して視野を広めてほしいと思っています。

2年生は、9月中旬に全員学位授与機構に提出する学修成果レポート等の書類を整備しました。12月に学位小論文試験がありますが、今年度も全員の学位取得を目指します。

さて、新たな制度である「特例適用認定」(小論文試験なしで、学校で一括して学位申請、取得ができる制度)を現在全国の高専が申請中ですが、審査基準がかなり高く、各高専苦心しながら全力で取り組んでいるところです。

また、現在、本校の専攻科は、来年度からの改組(2専攻、5コース制)に向けて様々な調整を行っている最中です。新たな取組みをしつつ教育・研究の充実に向けて取り組んでまいります。



一般教科の近況

一般教科長 鈴木 三 男

半年近くが経過し、4月当初は緊張していた1年生もすっかり高専での生活に慣れ、学生たちは勉強に課外活動に明るく元気に頑張っています。中には中学校とは段違いの授業内容に苦勞している学生もおりますが、きちんとした学習習慣を身に付け、先生や先輩の力を借りながらも自己解決する方法を早く身に付けて貰いたいと思っています。

さて、教員の異動についてご報告いたします。平成26年3月末には、国語科の高橋圭介先生が北海道教育大学函館校に、平成26年9月末には、物理科の新井真人先生が山形大学にご栄転されました。一般教科としては、これからも担任、課外活動の顧問、各種委員会での活躍を期待していた所で残念ではありますが、先生方の転出先でのご活躍をお祈りしたいと思います。

代わって、この4月からは国語科には古田正幸先生が、また10月から物理科には小田洋平先生が赴任されました。ともに30才前後の若い先生であり、その若さを武器に教科教育・学生指導に熱い情熱を持って当たられることを多いに期待する所です。

一般教科の教員は、学生たちの基礎的能力を養うために、一人々が授業を工夫し、また学生の人間性育成のために、積極的に課外活動の指導を日々行っております。



機械工学科の近況

機械工学科長 木 下 博 嗣

現在の機械工学科は、教員10名、更に、専攻科復興人材育成特別コースに所属する先生1名にお手伝いを御願ひして、11人体制で授業、卒業研究などを行っています。今年度の5年生は40人のクラスですが、19人が進学希望で、このうち東京工業大学1人、長岡技術科学大学4人、豊橋技術科学大学4人の9人が大学編入学に合格しています。また、例年に比較して進学希望者が増えて、9人が本校専攻科に合格しています。来年度から専攻科の改組が予定されており、希望者の増加は専攻科の発展に、はずみとなると思われます。就職希望は21人で、9月末時点ではほとんど就職が内定しておりますが、全員の進路決定は、もう少し先になりそうです。

ところで、実習工場に今年4月より、NC旋盤など新しい装置が導入され、学生の実習に使用しています。最先端の装置を使った実習が出来ることは、大変意義の有る事と思います。

また、10月から中古では有りますが、透過型電子顕微鏡が導入されます。卒業研究に使用する予定で、原子レベルでの観察が可能で、これにより新たな研究成果が期待されます。



電気工学科の近況

電気工学科長 鈴木 晴 彦

今年3月に春日 健教授が定年退職され、その新たな教員採用によって、電気工学科助教として橋本慎也先生をお迎えすることができました。橋本先生は本校電気工学科を平成15年3月に卒業され、その後、茨城大学工学部、同理工学研究科修士課程を経て、筑波大学にて博士号を取得されました。本年4月からは5年生の「電力システム工学」、4年生の「創作実習」、1年生の「電気製図」および「3, 4年生の学生実験」を担当して頂いておりますが、本校の電力系教員の一人として、スマートグリッドシステムの研究にも着手して頂いております。

加えて平成24年に着任し本校の「モノづくりセンター技術職員」として勤務されている谷地館藍氏が、「平成25年電気学会優秀論文発表賞（部門賞）」を受賞しました。授賞式が8月21日、平成26年電気学会A部門大会（信州大学）で行われました。これは、平成13年度から本校電気工学科が独自に取り組む「モノづくり教育プロジェクト」の中にある、「機械工学科学生のための電気系実験における創作演習」について、平成24年度までの取組みを電気工学科教職員の代表として研究会で報告した内容が評価されたものです。

さて、5年生48名の進路も概ね確定しており、数名を残すのみとなっています。20名の進学者のうち、9名が専攻科進学、6名が長岡・豊橋技術科学大学、5名が国立大への編入が決定しました。就職もNHK、キヤノン、アルパイン、会津・白河オリンパスなど大手企業を中心に、また、石油・化学系の企業への就職も多くありました。これからの後期、それぞれの学年とも、前半に得た技術と知識、経験を活かして、しっかりと実を結ぶべく邁進するものと期待しております。その証として、この9月末、校内体育大会で電気工学科は3年連続の総合優勝を得ました。これも和の心得を以て実現したものでしょう。



物質工学科の近況

物質工学科長 天野 仁 司

今年度は、羽切教員が研修のため小山高専に赴任しています。羽切教員は、教育・研究・校務のどの分野においても優れた仕事をする人物で、平成25年度の国立高等専門学校教員顕彰（若手部門優秀賞）を受賞しました。このような教員が、一年間本校を離れることは、短期的には痛手ではありますが、将来の物質工学科を担う、若手・中堅教員の育成という長期的な視野においては必要なことであり、今後も学科運営に大きな支障を生じない範囲で研修等の育成計画を実行していく予定です。若手教員では、尾形教員が日本応用糖質科学会東北支部奨励賞を受賞しました。尾形教員も、このような研究業績だけでなく、本科低学年から専攻科生まで、精力的な教育活動を実践しています。

さて、最近本校を訪れる卒業生から、「化学技術者であっても就職先では『モノづくり』の知識や技術が必要で、福島高専では、他高専の物質工学科にない『モノづくり』の科目があり役に立っている」という話を聞きます。そのような中で、物質工学科の女子学生のチームが知能ロボットコンテストにおいて優勝し、最優秀技術賞も獲得しました。一見化学とは無関係のように思われるかもしれませんが、実は「なんでもできる化学屋」としてはとても名誉なことです。

このように順風満帆に見える出来事もありますが、その一方で学生の質の変化や教員の過剰業務など対応を迫られることも多く、教職員一同、危急存亡の秋と心得て怠りなく責務を果たしていく所存です。



建設環境工学科の近況

建設環境工学科長 緑川 猛彦

昨年度に引き続き学科長を拝命しております。よろしくお願い致します。まず、建設環境工学科の教員団についての近況をご報告致します。平成17年4月に赴任された田村綾子先生が平成25年12月を持ちまして依願退職しました。田村先生は熊本大学自然科学研究科環境共生科学専攻から福島高専に赴任され、ご専門はリモートセンシングでした。授業では情報処理、測量、測量実習等を担当されておりました。また、平成14年4月に赴任された森田年一先生も平成26年3月を持ちまして群馬高専に異動となりました。森田先生は独立行政法人港湾空港技術研究所から本校に赴任され、土質力学、地盤工学、耐震設計法等を担当されておりました。森田先生の後任として、平成26年4月から金澤伸一先生が西松建設株式会社から赴任されました。金澤先生には、地盤工学、耐震設計法等を担当して頂いています。その他は昨年と同様で、現在9名体制で授業を行っています。また、学生の動向についてですが、相変わらず女子学生の人気が高く、今年の1年生は45名中12名が女子学生で、建設環境工学科全体では207名中68名（約33%）が女子学生です。就職・進学状況については、例年通り順調ですが、進学希望者と就職希望者がほぼ同じです。就職希望者のうち女子学生に公務員希望者が多いようです。

以上のように、学科全体としては順調ですがこれも学生が優秀であるおかげです。良い学科であるよう建設環境工学科教員一同取り組んで参りますので、ご家庭におきましてもご支援ご協力のほどよろしくお願い致します。



コミュニケーション情報学科の近況

コミュニケーション情報学科長 西口 美津子

コミュニケーション情報学科は、開設から21年の若い学科ですが、この夏、本科で学んだ4名の方々にお目にかかる機会がありました。イラストレータとして「プレジデント」の表紙を飾った方、社労士としていわきを基盤に大活躍の方、英国の大学を卒業しフェアトレードの会社を立ち上げた方、そして、専攻科卒業後オーストラリアの大学院で会計学の修士を取得し、現地で活躍されている方と多彩な女性達です。改めてコミュニケーション情報学科の培ってきた人材の豊富さ、そして何よりも福島高専から育った後も、勉強し続ける姿勢に感動しました。

今年卒業する5年生は、就職や進学など、進路を決めた学生達が始め、順調な滑り出しとなっています。4月に迎えた42名の新生も、従来にも増して学習熱心だと注目を集めています。コミュニケーション情報学科の教員には、4月に若林晃央先生、9月に安部智博先生を迎え、教員の平均年齢も一気に若返りました。

若いコミュニケーション情報学科が、今後も、伝統ある福島高専に爽やかな風を送り続けることを願ってやみません。



機械・電気システム工学専攻の近況

機械・電気システム工学専攻長 寺田 耕輔

今年度の本専攻への入学者は12名で、第2学年の学生と合わせ24名の在籍となり、この4月から専攻科授業を担当教員一同力を合わせて推進しています。さて、下記の点について本専攻の近況をご紹介します。

- ・インターンシップ：海外インターンシップに参加した本専攻の学生は、昨年度実績と同数の6名です。内訳は、フランスのIUT（技術短期大学）へ4名、中東の日本企業へ2名で、約3週間から2カ月のインターンシップに取り組んでいます。また、国内インターンシップも企業および大学等で活発に行っています。学校教育だけでは経験できない良い機会が学生諸君に与えられています。
- ・復興人材育成特別コース：平成25年度、専攻科に「復興人材育成特別コース」が開設され、今年度も本専攻から3名が履修登録し、勉学に励んでいます。
- ・就職活動：2年生の就職活動も好調に進んでおり、内定先は、地元企業を中心に多くの業界にわたり、日立アプライアンス、東洋エンジニアリング、アルパイン、日東紡績、古河電池、常磐共同火力、クリナップ、ふくしま市町村支援機構などがあります。

以上のように、積極果敢な活動を展開しており、今後とも全力を挙げて精進してまいります。



物質・環境システム工学専攻の近況

物質・環境システム工学専攻長 車田 研一

本年度は新たに金澤伸一先生（土木工学分野）を中央大学理工学部からお迎えし、スタートを切りました。これまでに本年度修了見込者11名の進路も順調に決まっております。専攻科の在籍生の数は最近増加傾向にあり、それだけに機関としての専攻科が提供できる教育のクオリティーに対する責務は重くなってまいりました。ごく近未来に見込まれている専攻科の大きな制度改編や改組を見越して、実際は決して容易なことではありませんが、余力を持って課されたハードルを越えていくことが重要であると痛感しております。専攻自身にとっても来たるべき変化のプレッシャーは大きく、今後の課題はまだ山のように聳えているのですが、短期間の内にずいぶんと変わってきたと感ずることもあります。例えば、専攻科学生が当たり前のように外国へインターンシップへ行くようになってきました。専攻長1年目だった2年前の状況を思い出すと、本当に隔世の感があります。最初は驚くようなことであっても次第に当たり前のように思えてくるという「事態への馴れ」の重要性を思う一面、その変化を当面可能にしてくれている諸般の状況や見えぬ諸方からの厚情を決して当たり前のもとは思っていけないと感ずる日々です。一つ一つ目標を超えて行くのは大変なこととは感じますが、くじけずに進んでまいりたく存じます。



ビジネスコミュニケーション学専攻の近況

ビジネスコミュニケーション学専攻長 芥川 一則

平成26年度から専攻長を拝命致しました。今年度は1年生2名、2年生が7名在籍しています。女性5名、男性4名です。特に1年生は全員が女性です。

1年生で実施させるインターンシップでは、1名が北オーストラリアのタウンズビルで研修をし、もう1名はいわき市内で研修しています。高専では学べない社会人としての経験や社会の厳しさを学び、成長して戻ってくることを期待しています。

2年生の進路は、2名が大学院進学、4名が民間企業に内定をいただき、1名が公務員の結果を待つ状況にあります。進学、就職ともに対応できる専攻科に向けた取組みが実を結んでいます。

後期からは勉学、研究に取り組む日々となります。特に2年生は12月に学位授与機構の試験を控えているため、気を抜けない毎日となります。しかし、目標に向かって努力する日々は、人生において非常に貴重な経験となります。充実した学生時代を送られるよう、専攻長として支援したいと思っています。

本校では、4年生と専攻科1年生に、校外実習・実務研修などの科目を設定し、企業などの協力を得て、インターンシップを実施しています。校外、実務の場に身を置くことで、技術者の役割を認識すること、学校で習得している知識が実社会でどのように活用されているかをそれぞれの学生が理解することを目的としています。

本校では、こうした経験を今後の学習に活かし、社会人として必要とされる知識などを卒業までに身につけるように、教育と指導を行っています。

「UnicharmGroup」 Global Internship

機械工学科4年 小野 敬裕

Unicharmの子会社のUnicharmProductsとは不織布吸収体をCoreとした5つの事業分野に展開している会社である。UnicharmGroupのShareは、日本・AsiaともにNo.1であり、すでに80ヶ国・地域でUnicharmの商品を手に入れることができる。業績面では12年間連続売上を伸ばし利益も8年間連続伸ばしている。将来(2020年)は世界No.1にむけて邁進し続けている会社の原動力について興味を持ちInternshipに参加した。



今回は、従来型のInternshipとは異なり、国内で実習後、引き続き海外で実習するGlobalInternshipである。

まず、棚倉町にあるUnicharmProducts福島工場で5日間の研修に参加した。企業理念、製品の生産工程、品質管理、安全管理まで多岐にわたり講義を聞き、Discussionを行うことで理解を深めた。また実際の製造Lineで実習し、HighSpecの商品を効率かつ安定的に生産している現場を体感した。

その後、VietnamにあるUnicharmGroupのDiana社

Hanoi工場、Bacninh工場で実習をした。ここでは、現地で活躍している日本人赴任者とGlobal人材についてDiscussionを行い、普段では味わえないような貴重な体験をさせていただいた。



Global社会といわれ、海外で働くことが当たり前となっている今、実際の赴任者から生の声を聞き、言葉の通じない方々と一緒に働く経験が出来たことは人生の決定的瞬間となった。また、国内工場の後に海外工場へ訪問することで、日本と海外の考え方、文化の違いなどを実感し整理することができた。

このGlobalInternshipを通じて、海外で働く大変さややりがいも明確になり、将来国内外問わずGlobal人材として活躍することを確固たる目標として持つことができた。自分が社会人となるには、またGlobal人材になるためには何が必要で今、自分に何が足りないのか、これから何をすべきなのかの羅針盤を手に入れることができた。是非、皆にも体験していただきたい。

キヤノンのインターンシップで学んだこと

機械工学科4年 横田 敦大



今回のインターンシップの一環として、5日間のものづくりコースを体験した。

1日目は東京都の下丸子本社で会社紹介を受けた後に会社内にある製品展示ギャラリーを見学した。午後には茨城県の取手事業所に移動し施設の見学を行いキヤノンの歴史を学んだ。また行動方針として「自発」、「自治」、「自覚」の三種を指す「三自の精神」というものを学びインターンシップ中も心がけるようにした。

2日目と3日目は一眼レフカメラの構造や仕組み、性能、レンズの種類や特徴などを説明してもらい実際にシャッタースピードや絞り、センサー感度などを変えて写真を撮影しそれぞれの違いが出ることを確認することができた。また、3日目終了後に先輩社員との交流を図る懇親会に参加して生の意見を聞くことができた。

4日目と5日目はプリンターについての構造や仕組み、一般用のものと業務用のものとの違いについての講義を受けた後に、実際にプリンターの構造について理解を深めるためにプリンターを分解しそれを再度組み立てた。また一般用と業務用のプリンターの違いを知るために実際に印刷をしてその違いについて比較して実感した。また、5日目終了後に6人位の班に分かれて一枚の紙にこれまで行ってきた実習内容についてのまとめをプレゼンテーションにして企業の方に発表し改善点などの指摘をいただいた。

最後に5日間のインターンシップを振り返って普段やっている勉強はもちろんのこと専門科目以外にも英語の重要性や、他に人と人のつながりや礼儀や挨拶といった普段意識していないところの重要性を改めて感じる事ができた。



インターンシップから見たもの

電気工学科4年 岩井 辰樹

私は今年度のインターンシップにおいてタカハタプレジジョンジャパン株式会社で5日間研修をさせていただきました。

タカハタプレジジョンジャパン株式会社は、開発、設計から組立、検査までを自社で行う生産一貫性を掲げ、樹脂製品を生産している企業です。

その中で今回私が実習をさせて頂いたのは、設計、開発を行っている技術本部です。

実習内容は、新人社員研修とほぼ同じものを5日間にまとめたものでした。

1日目はタカハタプレジジョンジャパンが行っている事業、実績、企業理念、社内技術についてガイダンスを受けました。



2日目は3次元CADという立体のモデルをコンピュータ上で作成するソフトで課題モデルを作成し、そのモデルをもとにCAEと呼ばれる

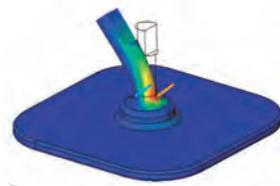
ソフトを用いて解析、評価を行ってそれに対する修正を行いました。

3日目は実際に生産されている製品を分解、組み立てし、部品リスト、フローチャートを作成しました。この二つは製品を生産するうえでとても大切なものであり、ミスを防ぐだけでなく生産にかかる時間を短縮できる事が出来ます。

4日目は3次元CADを用いて富士山のストラップモデルを作成しました。ただ富士山の形を作るだけでなく、ストラップとして機能するよう紐を通す穴など製品とする場合について考えモデルを作成しました。

最終日は、山梨県工業技術センターにて3Dプリンターと3Dプリンターで実際に作成された様々なものを見学させていただきました。また、5日間のまとめとして、研修の内容を社員さん達の前でプレゼンしました。

今回の実習では、現場ではどのように技術が生かされているか見て、体験する事が出来たため、将来について具体的に考える事が出来る様になりました。この経験を生かし、今後の実習や就職活動に役立てていきたいです。



インターンシップを終えて

電気工学科4年 小野 郁朗

今回私は、日新電機株式会社で5日間お世話になりました。

日新電機株式会社は電力エネルギー関連の設備を中心に様々な製品を製造している会社で、私は変圧器事業部で実習させていただきました。変圧器事業部では主に高電圧の電力用変圧器、力率改善用の分路リアクトルを製造しており、高電圧受託試験も行っています。

インターンシップ初日は変圧器事業部の説明と安全教育を受け、工場見学を行いました。安全教育では、様々なことを教えていただきましたが、特に印象に残っているのが、「安全は全てに優先する」という指針です。変圧器事業部で製造している製品は規模がとても大きいため、一つの事故の規模も大きくなってしまいます。そのため常に声を出して確認するなどの安全管理が徹底されていました。



2日目は設計部で設計実習を行いました。午前中は製造製

品のデータ整備を行い、午後はCADというコンピュータの設計ツールを用いて、変圧器の外箱の製図を行いました。

3日目と4日目は製造部で製造実習を行いました。まず3日目にはコイルの製作を行いました。学校にはないコイルに導線を巻く専用の機械を使用し、大変貴重な経験をすることができました。また、4日目では完成した変圧器の品質保証の試験を見学させていただきました。

最終日の5日目には実習報告のプレゼンテーションを行いました。

今回のインターンシップを通して、実際に学校で学んでいることが将来どのように活かされるのかを知り、職場でのコミュニケーションの大切さを改めて体験することができました。また、電気を使う上で欠かせないものを暑い工場の中で製造しているおかげで、冷房の中で生活できることに感謝したいと思います。



研究することの難しさと将来にむけて

物質工学科4年 新川 真弘



私は9月の中旬に5日間、東北大学多元物質科学研究所及川研究室においてインターンシップを行いました。

主な活動は「ナノ結晶の作成とその観察・評価」であり、化学物質の性質や現象の理解だけではなく、様々な測定機器を使った実習は実りの多いものとなりました。

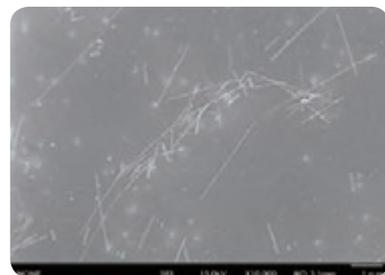
実習では、化学物質のナノ結晶を再沈法で作成し、それをSEMによる観察や、DLS・スペクトルの測定によって評価することで、ナノ結晶のサイズ・形等を調べることができました。

私がはじめて及川研究室を訪れたときに、教授である及川英俊先生に研究の概要を説明していただける機会がありました。そこで私は説明の中で疑問に思ったことを質問しました。その回答は「新しい理論の必要性が生じる」というものでした。

私たちが今、高専で学習している内容は当たり前ですが、先人たちが積み上げてきたものです。わからないことがあれば先生に質問すれば回答が得られますし、難しい教科書を自分で読み進めるときにはインターネットがその手伝いをしてくれます。しかし研究では、自分が世界で一番目になる目的としていますから、誰に質問しても、回答が得られるはずがありません。及川先生がおっしゃったことや院生の方々との会話から研究することのむずかしさの一部でも実感することができたのは大きな収穫です。

私は漠然とした将来の目標を持っていますが、今回の活動を通して、目標に向けて今の自分がすべきことがより明確になりました。また今回学習したことを今後の学生実験や卒業研究で活かすように、残り的高専生活を送ってきたいです。

最後になりましたが、インターンシップの受け入れをくださった及川英俊先生、および及川研究室の方々に感謝いたします。



今回のインターンシップを通して

物質工学科4年 品田 紗也夏

私は、9月8日から12日までの5日間、アステラスファーマテック株式会社高萩技術センターで実習をさせて頂きました。こちらの事業所では、医療用医薬品の原薬製造、研究ノウハウの検証などが行われています。今回の実習では、品質管理部、製造技術部、技術部をまわり、主に医薬品の分析業務、機器校正の体験、プロセス設計の座学などを行いました。

実習を通して強く印象に残っていることは、品質は「守る」ものではなく、「造りこむ」ものであるという考え方です。品質に関わる規定の多くは、社員間での話し合いによって改良を重ねられたものでした。現状に甘んじることなく、さらにより良くしようという向上心は、学生である自分にも必要であると感じました。



また、機器校正の体験をさせて頂き、現場の作業員と制御室の作業員とで緊密に連携を取らなければ、重大なミスを犯しかねないことを学び

ました。機器校正に限らず、ひとりだけでできる仕事は限られており、どんな場面でも周りの人とのコミュニケーションが必要であると改めて実感しました。

この5日間で、将来、人の役に立つものづくりに関することを志すものとして、大切なことを学びました。さらに、社員の方々に話を伺う中で、学生時代の専門分野とは違う分野で活躍されている方が多くおられることを知りました。入社後の努力と経験の積み重ねが重要であることを再確認するとともに、自分の将来の進路について視野を広げることができました。

最後になりましたが、忙しい中受け入れて下さったアステラスファーマテック株式会社高萩技術センターの皆様、本当にありがとうございました。



製鉄所での土木エンジニアの存在意義

建設環境工学科 4年 金成 雅季



先日、4年生の建設環境工学科生を対象とした新日鐵住金株式会社の会社説明会がありました。私は、なぜ鉄を作る会社に土木エンジニアが必要なのか疑問に思いました。自身が抱いた疑問を解決するために、新日鐵住金のインターンシップに2週間参加しました。製鉄所内の設備や建物を見学することで、製鉄所では大量の水を使用していることが分かりました。また、その水をそのまま捨てるのではなく、浄化や冷却などを行い再利用していることも教えてもらいました。

研修では、使用した水を冷却するための冷却塔を含む水道設備の設計を行いました。水道設備の設計は様々な指導書を参考にして、それぞれの規格に合った配管やポンプを使用し、組み合わせていくものでした。学校では水道の授業を一切行っておらず、分からな



いことばかりでしたが、担当の方々が快く教えてくれました。ですが、橋の設計演習は学校で専攻しており、指導書を使って設計するという点に関しては同じような感覚を覚えました。また、水と関わりのある水理学も専攻しており、似ている点がいくつかありました。このことから、学校で行っている授業が社会に出ても使われることを知ることができました。

私はインターンシップに行く前は自分が将来どうしたいのか、何になりたいのか分からず不安ばかりでした。今回のインターンシップには、製鉄所でどうして土木エンジニアが必要なのか知るために参加しました。実際、製鉄所では土木エンジニアは水処理の事業など、そのほか様々な分野で重要視されていました。インターンシップに参加することで、将来の選択肢が増え、不安は残りますが、それ以上に将来への期待が大きくなりました。また、寮に住むことで自分以外の高専生や大学生、大学院生とも仲良くなることができました。

おわりに、新日鐵住金株式会社様の益々のご発展をお祈り致すとともに、このような機会を与えていただいたことを感謝いたします。



港湾空港技術研究所でのインターンシップを終えて

建設環境工学科 4年 原田 真衣

私はこの夏、港湾空港技術研究所の海洋研究領域、耐波研究チームにインターンシップさせていただきました。私が耐波研究チームでの実習を希望したのは、津波について学びたいと考えていたからです。東日本大震災の際、私は津波の影響によって逆流する川の様子を目撃しました。幼い頃から見慣れた川が逆流し氾濫していく様子はあまりにも衝撃的で、今でも鮮明に覚えています。家族や友人、知人からも様々な話を聞き、改めて津波の恐ろしさを感じました。そこで、津波に強いまちを考えるためには、まず津波について学ぶ必要があると考えたのです。



私は、津波の周期の違いによる港湾内の津波の増幅特性を把握することを目的として実習に取り組みました。港の簡易なモデルを作製し、そこに複数の長周期波を与えることで、港湾内の津波の増幅特性を三次元数値シ

ミュレーションによって検討しました。検討に用いたソフトやプログラムは、初めて触れるものばかりで戸惑うことも多くありましたが、チームの皆さんがとても親切にして下さり、何度も丁寧に教えて下さったので最後までやり抜くことができました。

今回の実習を通して、実習を行う前より津波について理解を深めることができました。そして、津波についてもっと学びたいという気持ちがより大きくなったとともに、自分がかに未熟かを改めて知りました。知らない単語、知らない原理、初めて扱う手法、私にはまだまだ学べることがあるのだと実感しました。また、様々な貴重な体験をさせていただいたことで、2週間の間で人間的にも成長できたように思います。このインターンシップで学んだことを生かして、今後の高専での勉強によりいっそう励んでいきたいです。最後に、インターンシップを受け入れ、温かく迎えて下さった耐波研究チームの皆様、港湾空港技術研究所の皆様、本当にありがとうございました。



学校生活の中で大切な時間 コミュニケーション情報学科4年 大竹 真亜沙

私は今年の夏の約1か月間、主に広報いわきの作成やSNSでの市政情報の発信などを行い、市民の方に市の情報を伝えるお仕事をしている、いわき市役所の「ふるさと発信課」にてインターンシップを行ってきました。

七夕祭りや回転櫓等イベントの取材の同行や市で運営するFacebookに掲載する原稿の作成など様々な業務を体験させて頂き、本当に充実した日々を送ることができました。

インターン開始から2週間が過ぎた頃、とても大きな業務が私の元に飛び込んできました。それはわたしの活動記録となる「インターン日誌」を市のFacebookにて連載していくというものでした。今までは業務の補佐をしながら業務内容を学んでいくというスタイルでしたが、取材から全て私自身が行うという事に最初はとても不安で戸惑いました。しかし、職員の方々にあたたかいご指導や励まし



の言葉を頂き、次第に自分の発信したいことを進んで見つけ、取材も回を重ねるごとに積極的に行うことができるようになって

りました。日誌作成を通して、自分の言いたいことや考えを簡潔に伝える難しさや情報発信者としての責任



性、行動力の重要性などとても多くのことを学ぶことができ、以前よりも一回り成長することができたと同時に、自分が発信した記事を多くの方に読んでいただける喜びとやりがいを感じることができました。

また半日、秘書課にてインターンを行い、その際市長の式典参加の同行をさせて頂きました。市長と行動を共にし、お話しを伺うという非常に貴重な機会を与えて下さったことにとっても感謝しています。

この1か月間で学生だからこそできた人生でまたとない貴重な経験を数えきれない程させて頂き、その中で本当に数多くのことを学ぶことが出来ました。市役所にてインターンシップを行えたことを誇りに思っています。心から感謝の気持ちでいっぱいです。

中国でのインターンシップ コミュニケーション情報学科4年 佐藤 文

私は、中国上海市にある上海呉羽化学有限公司（以下、上海呉羽）へインターンシップに行きました。このインターンシップ先を選んだ理由は2つあります。1つ目は、場所が海外であったためです。私は高専入学当初から、海外での仕事や異文化圏での生活に興味がありました。そのため、このインターンシップは十代のうちに海外に行くことのできるチャンスだと思い、応募しました。2つ目は、上海呉羽が工業製品を扱う企業であったためです。コミュニケーション情報学科は全国高専の中でも珍しい文系学科であり、高専生でありながら工業分野に関わることはほとんどありません。工業分野での機械化や、産業の空洞化が社会で問題視される中、文系ならではの視点からそれらの問題について考え、モノづくりに関わることができないかと思ったことがきっかけでした。

インターンシップは3月の始めから3週間の日程で行われました。研修内容は大まかに分けて見学と実習の2つでした。見学段階では、製品の製造から検査、在庫管理、営業に至るまで一連の企業活動を見学させていただきました。実習段階では、見学したことを踏まえて実際に製品を製作したり、製品展示会での営業、人事採用面接に参加したりと、数多くの貴重な体験をさせていただくことができ

ました。また、工業の現場が抱える問題やむずかしさを目の当たりにもし、今後社会に出る私たちの世代が考えなければいけない課題も突きつけられました。

このインターンシップは海外で行ったため、研修以外に生活の面でも多くの方々に温かいご支援を頂きました。数々の貴重な経験と合わせ、たくさんの方々との出会いもかけがえのない財産になりました。この経験を踏まえて、残り的高専生活を有意義に過ごしていきたいと思います。



中東インターンシップを振り返って

機械・電気システム専攻1年 青木 亮太

私はYOKOGAWA Middle East & AfricaとJGC Gulfのインターンシップに参加しました。バーレーン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦の3ヵ国で計6週間の研修を行いました。始めて訪れた中東の気候や宗教、文化の違いなどにいろいろと困惑しました。

最初の研修場所であるバーレーンでは、YOKOGAWAのオフィスで制御システムの理論や計測機器、それらを管理するシステムのシミュレーションを学びました。また、初めて英語でのプレゼンテーションにも挑戦しました。第2の研修場所であるサウジアラビアでは、JGC Gulfのオフィスでプラントの設計に関する研修を行いました。プラント設計のために、様々なエンジニアリング部門が協力して



て仕事をしていることを間近で体験することができました。企業訪問では、実際に化学プラントを見ることができ、その規模の大きさに驚



かされ、産油国が有する世界への影響力の大きさを改めて実感しました。最後の研修場所であるアラブ首長国連邦では、アブダビとドバイに滞在し、大学訪問などを行いました。現地の学生や教授などと会話をし、日本と海外の仕事などに関する考えの違いを知ることができました。

たった6週間という期間でしたが、海外での仕事の様子や現地で働いている方々の話にはとても刺激を受けました。特に外国人とコミュニケーションしたことや海外の文化に触れたことはとても良い経験となりました。これらの経験は私がこれから働くためにとても重要なものとなると感じました。

海外インターンシップ

物質・環境システム工学専攻1年 後藤 咲季



私は、フランス・リールの大学での約2ヶ月間のインターンシップに参加しました。大学では、英語の授業と学生実験を大学の学生たちに混ざり、一緒に受けました。少人数クラスで先生と学生との会話の多い授業、また、2人1組となって先生の指示を受けず、各自テキストを見ながらそれぞれ



で実験を行う学生実験、と日本の学校との違い、積極性の大切さを感じました。

今回私は初めての海外、親元を離れての寮生活、ほとんど話したことのない人達とのインターンシップ、ということで大きな不安を抱えてフランスへと渡りました。実際は、毎日たくさんの刺激があり、充実した楽しい日々を過ごすことができました。特に語学に関しては、自分の英会話力の無さを痛感することが多々ありました。

今回、積極的な行動、コミュニケーション能力、英会話力の重要性を再確認したインターンシップとなりました。



海外インターンシップについて

ビジネスコミュニケーション専攻科1年 関根 季

私は9月8日から8週間に亘ってTownsville Enterprise Limitedで海外研修を行いました。タウンズビルは、北オーストラリアで最大の街であり、年間平均320日の晴天が続く地域です。アジアのいくつかの都市とも姉妹都市を結んでおり、いわき市もその1つです。

Townsville Enterpriseは非営利団体で、会員である様々な業種の会社にビジネスの機会を提供したり、投資や雇用を増やすための戦略的な活動をしてサポートをしています。



当社は、タウンズビルにおける観光業と経済発展の2つに力を入れています。私は以前から観光業に興味があり、それに携わる研修を行

いたいと考え当社を希望しました。

主な業務内容としては、当社の会員になっている会社に関する情報と、ボランティアの方が各地で実施した観光客に関する調査結果についてのデータ作成を行いました。ま

た、当社の会員である会社にビジネスの機会を提供するためのビジネス交流会のお手伝い、観光客を対象にしたアンケートの作成・統計、そしてタ



ウンズビルの観光スポットの情報を提供する活動をボランティアの人たちと一緒にしています。その他には、地域メディアのイベント等の報道についてそれぞれの広報コストや観光PRの価値を調査したり、日本人観光客向けの観光パンフレットを作るための和訳も行っています。

私のいる観光とイベントを中心としている部署では、9月10日に観光客をサポートする58人のボランティアの人が集まり、抱えている問題点や解決策、現在の取り組みについて話し合う集会がありました。実際に観光促進のために現場で活動している人たちの話を伺うことが出来き、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

現段階で研修はあと1ヶ月残っています。多くの方にサポートして頂きながら、自分が興味ある分野で、将来に活かせる素晴らしい社会経験ができています。海外研修の機会を与えて下さった方々に感謝したいです。

◆インターンシップ協力企業等一覧

ご協力に感謝申し上げます (種類別にアイウエオ順)

(企業)

会津オリンパス(株)、特定非営利活動法人 LOVEつづき、あかい菜園(株)、曙プレーキ工業(株)、あすか製薬(株)、アステラスファーマテック(株)、(株)東コンサルタント、アルパイン(株)、アルパイン技研(株)、アルパインマニファクチャリング(株)、(株)アルピオン、(有) いまゑじゅ、いわき信用組合、いわきワシントンホテル、英会話スクールキッズガーデン、(株)エイテック、(株)荏原製作所、(株)NTT東日本-東北、大阪ガス(株)、(株)オージャスト、(株)オープンハウス、河井順行税理士事務所、カゴメ(株)、キャノン(株)、京セラ(株)、(株)キョウデン東北、(株)くつろぎ宿、クリナップ(株)、(株)クレハ環境、クレハ建設(株)、(株)京急ステーションサービス、(株)鴻池組、堺化学工業(株)、(株)佐藤農園、(株)三伸製作所、サントリーホールディングス(株)、(株)資生堂、(株)シマノ、清水建設(株)、白河オリンパス(株)、ジェイアール東日本コンサルタンツ(株)、JFEスチール(株)、(株)JT B東北、首都高速道路(株)、常磐開発(株)、常磐共同火力(株) 勿来発電所、(株)情報技研、新常磐交通(株)、新日鐵住金(株)、水ing(株)、(株)speee、全日本空輸(株)、ソニーエナジー・デバイス(株)、第一三共プロファーマ(株)、(株)平中央自動車学校、タカハタプレジジョンジャパン(株)、(株)タンガロイ、地質基礎工業(株)、中部電力(株)、電源開発(株)、東京ガス(株)、東京電力(株)、東燃ゼネラル石油(株)、東洋システム(株)、東洋水産(株)、東レ(株)、トヨタカロライいわき(株)、特定非営利活動法人ドットジェイピー、西尾レントール(株)、日栄地質測量設計(株)、日新電機(株)、日本原燃(株)、

日本原子力発電(株)、(株)日本色材工業研究所、(株)ネクスト情報はましん、長谷川体育施設(株)、(株)ハニーズ、東日本高速道路(株)、(株)東日本計算センター、東日本測量(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)福島インフォメーションリサーチ&マネジメント、福浜第一建設(株)、(株)富士通エフサス、富士フィルムファインケミカルズ(株)、フタバコンサルタンツ(株)、古河電池(株)、(有)ベコパレット、(有)ベスト青海、ホテルハマツ郡山、堀江工業(株)、(株)マイスターエンジニアリング、(株)前川製作所、道の駅よつくら、三菱重工業(株)、三菱電機ビルテクノサービス(株)、三菱地所コミュニティ(株)、特定非営利活動法人ミニシティプラス、森永乳業(株)、ユニ・チャームプロダクツ(株)(ベトナム)

JGC Gulf International社、Yokogawa Middle East&Africa社 (パーレーン、サウジアラビア、アラブ首長国連邦)、Townsville Enterprise Pty LTD(オーストラリア)、上海吳羽化学有限公司(中国)

(大学)

いわき明星大学図書館、茨城大学、京都大学、東北大学、長岡技術科学大学、奈良先端大学

ヴァランシエンヌ技術短期大学(フランス)、ジェームズクック大学(オーストラリア)、ベテューヌ技術短期大学(フランス)、リールA技術短期大学(フランス)

(官公庁)

いわき市役所、茨城県庁、宇都宮市役所、北茨城市役所、(独)港湾空港技術研究所、国土交通省東北地方整備局、榎葉町役場、(独)日本原子力研究開発機構、広野町役場、(一財)ふくしま市町村支援機構郡山試験審査所

English Camp in Singapore

建設環境工学科 3年 齋藤 日向子



私は、8月17日から8月31日までの2週間、「高専生のための英語キャンプ」というプログラムに参加しました。北海道から沖縄まで、全国の高専生40人が集まりました。

授業は、平日9時から16時まで、20人ずつ2クラスに分かれSingapore Polytechnicで行われました。もちろん授業はすべて英語で、先生に日本語は通じません。はじめのうちは、先生が言っていることを理解するのも大変でした。それでも、日が経つにつれ英語に馴れ、自然と話の大まかな内容は理解できるようになりました。また、自分の言いたいことが、相手に思うように伝わらないもどかしさや、自分の英語力のなさも痛感し、もっと英語を頑張らなければならないと気づくことができました。



また、この英語キャンプのプログラムの中に、企業見学の日がありました。日本の大手ゼネコンである大林組のトンネル工事の様子を見学し、シンガポールで働いている日本の方の話を聞いたので、自分の将来の進路を考える際の大きなヒントとなりました。

放課後と休日は、班ごとの自由行動でした。行きたいところを話し合い、マーライオンやナイトサファリ、チャイナタウン、リトルインディア、ユニバーサルスタジオシンガポール…などなど、歩き疲れてくたくたになるくらい満喫しました。

放課後と休日は、班ごとの自由行動でした。行きたいところを話し合い、マーライオンやナイトサファリ、チャイナタウン、リトルインディア、ユニバーサルスタジオシンガポール…などなど、歩き疲れてくたくたになるくらい満喫しました。

宿泊はホステルでした。ホステルには、シンガポールに勉強に来ている様々な国の学生が泊まっていました。部屋や共通スペースでみんなと宿題をしたりおしゃべりしたりと、とても楽しく過ごすことができました。みんなこの英語キャンプで初めて会ったはずなのに、高専生同士だからなのか、話が合って盛り上がりました。

高専生とのつながりが増え、英語に対する意識を変えることができたので、英語キャンプの2週間はとても充実していて、価値あるものでした。



福島高専地域フォーラム「地熱発電及び地中熱利用について」

地域復興支援室

地域復興支援室では、平成26年6月16日に「地熱発電及び地中熱利用について」と題して地域フォーラムを開催した。この両者の源は似ているようで全く異なるものであるが、このところ脚光を浴びているテーマである。この知っているようで詳しくは知らない話には、学生も含めて約50名の聴衆は皆、熱心な様子で聞き入っていた。

講師として独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)からは都築雅年氏、オープン間もない産総研再生可能エネルギー研究所からは浅沼宏、内田洋平両研究チーム長の3人の専門家をお招きし、易しく解説していただいた。終了後回収したアンケートには約半数の方が回答していただいたが、おおむね良好な意見が多く、この企画の継続を期待する旨の希望も多く寄せられた。これらのご意見は今後の企画に役立てた。



終了後回収したアンケートには約半数の方が回答していただいたが、おおむね良好な意見が多く、この企画の継続を期待する旨の希望も多く寄せられた。これらのご意見は今後の企画に役立てた。

平成26年度 一日体験入学を終えて

入学者対策専門部会長 根本昌樹

平成26年度の一日体験入学は、8月2日（土）、3日（日）で行われました。両日とも大変な猛暑の中実施されましたが、大きなトラブルも無く無事に終了することが出来ました。今年の参加者は760名と昨年より50名ほどの減少となりましたが、充実した体験入学となりました。今年の各学科のデモ実験のテーマと内容等を紹介します。

機械工学科



「未来を創造する機械工学を知ろう」というテーマで、①学科紹介 ②身の回りにあるものでモノづくり ③市民に役立つモノづくりのデモ実験を行いました。



電気工学科



「電気の世界へようこそ 見る・触る・感じる」というテーマで①超伝導、鳴き砂、錯覚の研究紹介 ②創作実習紹介 ③産業用ロボットのデモ実験を行いました。

交流コーナー

休憩時間を利用して、①学校紹介 ②入試相談 ③ミニ研究紹介 ④各種ロボコン出場機実演を行いました。更に課外活動の紹介も行いました。

物質工学科

「化学への招待ー楽しい化学の実験室ー」というテーマで、学科の説明、電気を使わない無電解めっき技術を利用した金属加工のデモ実験を行いました。



建設環境工学科

「災害に強いまちを造る」をテーマに、①コンクリートの破壊音を聞こう！ ②理想のまちって、どんなまち？ のデモ実験を行いました。



コミュニケーション情報学科



「Reach Your Dreams！」というテーマで、①学科紹介 ②学べばワカル 分かれればワカル！の模擬授業を行いました。

東北地区高専体育大会の結果(平成26年度)

一東北地区大会一

八戸大会

■陸上競技(男子)

学校対抗		第1位
100m	古和口 廉 (3K)	第1位
〃	作山 巧次 (3E)	第4位
〃	渡邊 隆也 (3C)	第5位
200m	古和口 廉 (3K)	第1位
〃	作山 巧次 (3E)	第3位
400m	坂本 淳 (4M)	第3位
〃	庄司 陽 (5K)	第4位
〃	熊谷 純樹 (4K)	第8位
800m	鈴木 陵太 (2E)	第3位
〃	阿部 礼 (3M)	第8位
1500m	佐藤 利紀 (3M)	第1位
〃	宮垣 佳和 (4M)	第2位
〃	古川 裕基 (3K)	第3位
5000m	佐藤 利紀 (3M)	第1位
〃	宮垣 佳和 (4M)	第2位
〃	熊谷 裕平 (1I)	第3位
110m H	神部 光 (4K)	第2位
〃	結城 大貴 (2E)	第8位
3000m SC	磯上 健太 (2M)	第1位
〃	小野 嘉己 (4K)	第4位
〃	長谷川勇太 (1E)	第7位

4×100m R (作山・古和口・神部・渡邊) 第1位

4×400m R (坂本・鈴木・神部・古和口) 第1位

走高跳 宮原遼太郎 (5M) 第5位

〃 結城 大貴 (2E) 第8位

棒高跳 玉川竜太郎 (5C) 第4位

〃 松本 武尊 (5M) 第6位

〃 狩野 知泰 (2M) 第7位

走幅跳 石井 太陽 (3C) 第2位

〃 今野 和樹 (2K) 第4位

〃 鳥谷信太郎 (5K) 第5位

三段跳 鳥谷信太郎 (5K) 第3位

〃 大平 健一 (3E) 第6位

〃 石井 太陽 (3C) 第7位

砲丸投 佐藤 将富 (1C) 第2位

〃 櫛田 秀人 (2E) 第5位

〃 佐藤 将富 (1C) 第5位

やり投 渡邊 隆也 (3C) 第1位

〃 佐藤 文啓 (4K) 第5位

〃 渡部 滉大 (4K) 第6位

■陸上競技(女子)

学校対抗 第4位

100m 武藤 咲希 (1I) 第2位

800m 武藤 咲希 (1I) 第1位

走高跳 馬目千維奈 (3K) 第4位

円盤投 根本 恵 (4C) 第1位

〃 吉田 葵 (2K) 第4位

やり投 大久保 萌 (1I) 第4位

〃 佐藤 里佳 (3C) 第6位

■バスケットボール(男子)

予選リーグ 福島75-100一関 予選敗退

福島64-60 秋田

■バスケットボール(女子)

リーグ戦 福島28-115八戸 第3位

福島51-61 仙台名取

■卓球(男子)

団体戦		第1位
シングルス	安齋 正樹 (3K)	第1位
〃	矢内 智大 (3M)	第2位
〃	木田 貴文 (4C)	第3位
〃	中丸 智貴 (5E)	第4位
〃	青木 勇斗 (5M)	3回戦敗退
〃	佐藤 瑞樹 (4C)	3回戦敗退
〃	鈴木 孝幸 (4E)	2回戦敗退
〃	鯨岡 康佑 (3E)	2回戦敗退
ダブルス	中丸 智貴 (5E)	
〃	青木 勇斗 (5M)	第1位
〃	安齋 正樹 (3K)	
〃	矢内 智大 (3M)	第2位

■卓球(女子)

シングルス	今野小百合 (5K)	第1位
〃	滑川 侑佳 (5I)	第2位
〃	大浦 悠 (3K)	第3位
〃	齋藤佳菜子 (4I)	ベスト4
ダブルス	滑川 侑佳 (5I)	
〃	今野小百合 (5K)	第1位
〃	齋藤佳菜子 (4I)	
〃	大浦 悠 (3K)	第2位

■剣道(男子)

団体		第7位
個人戦	向山 翔 (2M)	1回戦敗退
〃	大河原 拓 (2M)	1回戦敗退
〃	佐藤 駿介 (4C)	3回戦敗退
〃	野口 翔矢 (4M)	1回戦敗退
〃	小室 宏貴 (2K)	3回戦敗退
〃	岡部 慧也 (2E)	1回戦敗退
〃	佐波 克久 (4K)	2回戦敗退

■剣道(女子)

個人戦	鈴木 遥 (4C)	2回戦敗退
〃	小澤 友子 (4K)	2回戦敗退

■テニス(男子)

団体戦		第1位
シングルス	市川 希 (3K)	第3位
〃	佐藤 佑樹 (5M)	2回戦敗退
〃	宮嶋 豪 (3C)	2回戦敗退
ダブルス	菊池 洋輝 (3M)	
〃	高木 健志 (3I)	第3位
〃	松崎 本夢 (5M)	
〃	岡田 敦 (5E)	第3位

■テニス(女子)

団体戦		第1位
シングルス	高橋なるみ (3K)	第1位
〃	篠原なつみ (2I)	第3位
〃	松田 歩華 (3C)	2回戦敗退
ダブルス	高橋なるみ (3K)	
〃	嘉齊 滯 (3I)	第1位
〃	坂本 萌子 (5I)	
〃	高橋ちひろ (5I)	1回戦敗退

福島大会

■バレーボール(男子) 予選敗退

予選リーグ 福島0-2八戸

福島2-0 仙台広瀬

福島0-2 仙台名取

■バレーボール(女子) 予選敗退

予選リーグ 福島0-2 鶴岡

福島0-2 仙台広瀬

■ソフトテニス(男子)

団体戦		第1位
個人戦	武藤 尚樹 (3K)	
〃	佐藤 伸耶 (5E)	第2位
〃	金丸 允駿 (5E)	
〃	佐野 友啓 (4K)	第3位
〃	佐藤 善治 (4M)	
〃	山口 敦士 (3M)	2回戦敗退
〃	大和田 嵩 (5K)	
〃	安瀬 登軌 (4E)	1回戦敗退

■ソフトテニス(女子)

個人戦	西内 瑞生 (3K)	
〃	坂下和香奈 (3C)	第3位
〃	西山 知里 (2I)	
〃	高橋 美優 (3I)	予選敗退
〃	古川 千尋 (1M)	
〃	石井 佑香 (2C)	予選敗退

■柔道

団体戦		第5位
個人戦(60kg級)	原 巨彦 (3K)	1回戦敗退
個人戦(73kg級)	三浦 和輝 (5M)	2回戦敗退
〃	安島 優成 (5M)	2回戦敗退

■硬式野球

福島6-7 仙台名取 1回戦敗退

■サッカー 準決勝 福島2-2 秋田 (4 PK 3) 第2位

決勝戦 福島1-1 仙台広瀬 (5 PK 6)

■水泳競技(男子)

学校対抗		第2位
50m自由形	斉藤 大明 (5I)	第3位
〃	横山 佳輝 (5M)	第8位
100m自由形	斉藤 大明 (5I)	第2位
〃	吉田 光義 (3M)	第7位
〃	猪狩 聖人 (5E)	第9位
200m自由形	松田 裕樹 (4E)	第4位
〃	猪狩 聖人 (5E)	第7位
400m自由形	菊地 啓太 (2C)	第5位
〃	坂本 亮太 (1M)	第7位
〃	松田 裕樹 (4E)	第8位
800m自由形	坂本 亮太 (1M)	第2位
〃	齊藤 圭紀 (2M)	第5位
〃	山下 賢也 (5M)	第6位
100m背泳ぎ	生方 歩高 (3M)	第1位
〃	横山 佳輝 (5M)	第8位
〃	仲村 誉 (2K)	第9位
200m背泳ぎ	生方 歩高 (3M)	第1位
〃	山下 秀 (4M)	第3位
〃	仲村 誉 (2K)	第6位
100m平泳ぎ	圓子 智弘 (5E)	第3位
〃	蒲生 博崇 (2E)	第6位
200m平泳ぎ	吉田 光義 (3M)	第3位
100mバタフライ		
〃	四倉 悠介 (3K)	第7位
〃	会田 優斗 (1K)	第8位
〃	山下 秀 (4M)	第9位
200mバタフライ		
〃	会田 優斗 (1K)	第3位

〃	四倉 悠介 (3K)	第4位
200m個人メドレー		
	圓子 智弘 (5E)	第5位
〃	菊地 啓太 (2C)	第6位
〃	齋藤 泰直 (1M)	第9位
400mリレー (齊藤・生方・四倉・吉田)		第3位
800mリレー (齊藤・生方・松田・吉田)		第2位
400mメドレーリレー (生方・圓子・四倉・齊藤)		第2位

■水泳 (女子)

学校対抗		第1位
100m自由形	小野 晶子 (4C)	第1位
〃	櫻井 友香 (1I)	第3位
200m自由形	櫻井 友香 (1I)	第2位
〃	鈴木 彩那 (1I)	第5位
50m背泳ぎ	若松 真純 (5I)	第2位
100m背泳ぎ	若松 真純 (5I)	第1位
〃	鈴木 彩那 (1I)	第6位

100m平泳ぎ	小野 晶子 (4C)	第1位
〃	佐々木夏子 (4C)	第5位
200m平泳ぎ	佐々木夏子 (4C)	第2位
50mバタフライ		
	大橋 星花 (3I)	第2位
100mバタフライ		
	大橋 星花 (3I)	第2位
200mリレー (小野・若松・大橋・櫻井)		第1位
400mリレー (櫻井・大橋・小野・若松)		第1位
200mメドレーリレー (若松・小野・大橋・櫻井)		第1位

■バドミントン (男子)

団体戦		第3位
シングルス	猪狩 憲太 (5I)	1回戦敗退
〃	八島 弘耀 (5E)	1回戦敗退
〃	大越 康晴 (5E)	1回戦敗退

〃	西田 圭吾 (4M)	2回戦敗退
〃	貝沼秀一郎 (4E)	2回戦敗退
ダブルス	尾日向駿介 (5C)	
	徳永 昇吾 (5E)	1回戦敗退
〃	貝沼秀一郎 (4E)	
	青木健一郎 (4K)	2回戦敗退
〃	星 祐太 (4K)	
	西田 圭吾 (4M)	2回戦敗退

■バドミントン (女子)

団体戦		第2位
シングルス	薄葉なつみ (4C)	第1位
〃	村上あずさ (4I)	第3位
〃	小松 愛 (4I)	1回戦敗退
〃	遠藤菜々子 (3K)	1回戦敗退
〃	山野辺百花 (3K)	1回戦敗退
ダブルス	瀧 彩文 (5I)	
	薄葉なつみ (4C)	第2位
〃	小松 愛 (4I)	
〃	村上あずさ (4I)	1回戦敗退
〃	村上絵理奈 (5C)	
	佐川 睦実 (3C)	2回戦敗退

第49回全国高専体育大会結果

■陸上競技

高知高専 (宿毛市陸上競技場)		
(男子)		
学校対抗		第5位
100m	古和口 廉 (3K)	第3位
200m	古和口 廉 (3K)	第3位
1500m	佐藤 利紀 (3M)	第9位
5000m	佐藤 利紀 (3M)	第6位
4×100m R (作山・古和口・神部・庄司)		第2位
4×400m R (庄司・鈴木・作山・古和口)		第2位
やり投	渡邊 隆也 (3C)	第7位
(女子)		
800m	武藤 咲希 (1I)	第6位

■ソフトテニス (男子)

阿南高専 (J Aバンクテニスプラザ)		
団体戦		予選敗退
個人戦	金丸 允駿 (5E)	
	佐野 友啓 (4K)	1回戦敗退
〃	武藤 尚樹 (3K)	
	佐藤 伸耶 (5E)	2回戦敗退

■卓球

弓削商船高専 (松山市総合コミュニティセンター体育館)		
(男子)		
団体戦		優勝
シングルス	安齋 正樹 (3K)	第1位
〃	矢内 智大 (3M)	第3位
ダブルス	中丸 智貴 (5E)	
	青木 勇斗 (5M)	第3位
(女子)		
シングルス	滑川 侑佳 (5I)	第2位
〃	今野小百合 (5K)	第3位
ダブルス	齋藤佳菜子 (4I)	
	大浦 悠 (3K)	第2位
〃	滑川 侑佳 (5I)	
	今野小百合 (5K)	第3位

■テニス

香川高専託問キャンパス (香川県総合運動公園テニスコート)		
(男子)		
団体戦		2回戦敗退
(女子)		
シングルス	高橋なるみ (3K)	第3位
ダブルス	高橋なるみ (3K)	
	嘉齊 滯 (3I)	2回戦敗退

■バドミントン

弓削商船高専 (松山市総合コミュニティセンター体育館)		
(女子)		
シングルス	薄葉なつみ (4C)	第3位
ダブルス	瀧 彩文 (5I)	
	薄葉なつみ (4C)	1回戦敗退

■水泳

香川高専 (香川県立総合プール)		
学校対抗		第6位
(男子)		
800m自由形	坂本 亮太 (1M)	第17位
100m背泳ぎ	生方 歩高 (3M)	第3位
200m背泳ぎ	生方 歩高 (3M)	第2位
400mメドレーリレー (生方・圓子・猪狩・齊藤)		第5位
(女子)		
100m平泳ぎ	小野 晶子 (4C)	第4位
50m背泳ぎ	若松 真純 (5I)	第8位
200mリレー (櫻井・大橋・若松・小野)		第2位

高等学校体育大会等の結果

◎第60回福島県高等学校体育大会 県大会

■陸上競技 (男子)

100m	古和口 廉 (3K)	第2位 (東北大会出場)
200m	古和口 廉 (3K)	第1位 (東北大会出場)
400m	古和口 廉 (3K)	第2位 (東北大会出場)
4×400m R		第5位 (渡邊隆也 (3C)・鈴木陵太 (2E)・作山巧次 (3E)・古和口廉 (3K)) (東北大会出場)

■バレーボール (女子)

1回戦敗退

■ソフトテニス (男子)

団体戦		3回戦敗退
ダブルス	武藤 尚樹 (3K)	
	山口 敦士 (3M)	ベスト10 (東北大会出場)
〃	松本 恭彦 (3K)	
〃	赤津 利也 (3E)	2回戦敗退
〃	千葉裕太郎 (2C)	
	大島 幸平 (3E)	2回戦敗退

■ソフトテニス (女子)

団体戦		2回戦敗退
-----	--	-------

■テニス (男子)

団体戦		ベスト8
-----	--	------

ダブルス	宮嶋 豪 (3C)	
	橋本 拓実 (1M)	ベスト16

■テニス (女子)

団体戦		1回戦敗退
ダブルス	篠原なつみ (2I)	
	蛭田 愛未 (2C)	1回戦敗退
シングルス	高橋なるみ (3K)	ベスト16

■卓球 (男子)

団体戦		第3位
シングルス	安齋 正樹 (3K)	ベスト8
〃	矢内 智大 (3M)	ベスト12
ダブルス	安齋 正樹 (3K)	
	矢内 智大 (3M)	第3位

■卓球 (女子)

団体戦			第2位
シングルス	大浦 悠 (3K)	ベスト12	
〃	佐藤 泉 (2I)	ベスト12	
〃	猪狩 栞菜 (2I)	ベスト12	
〃	高橋 百花 (1I)	ベスト16	
ダブルス	大浦 悠 (3K)		
	佐藤 泉 (2I)		第1位

■剣道 (男子)

団体戦			1回戦敗退
-----	--	--	-------

■水泳 (男子)

50m自由形	安達 拓朗 (2E)	予選敗退	
〃	吉田 光義 (3M)	予選敗退	
100m自由形	吉田 光義 (3M)	予選敗退	
〃	四倉 悠介 (3K)	予選敗退	
400m自由形	坂本 亮太 (1M)	予選敗退	
〃	齊藤 圭紀 (2M)	予選敗退	
1500m自由形	坂本 亮太 (1M)	第10位	
100m背泳ぎ	仲村 誉 (2K)	予選敗退	
〃	生方 歩高 (3M)	第3位	(東北大会出場)
200m背泳ぎ	齋藤 泰直 (1M)	棄権	
〃	仲村 誉 (2K)	予選敗退	
〃	生方 歩高 (3M)	第2位	(東北大会出場)
100m平泳ぎ	会田 優斗 (1K)	予選敗退	
〃	蒲生 博崇 (2E)	予選敗退	
200m平泳ぎ	安達 拓朗 (2E)	予選敗退	
〃	蒲生 博崇 (2E)	予選敗退	
100mバタフライ	菊地 啓太 (2C)	予選敗退	
〃	四倉 悠介 (3K)	予選敗退	
200mバタフライ	会田 優斗 (1K)	予選敗退	
200m個人メドレー	菊地 啓太 (2C)	予選敗退	
400mリレー		予選敗退	
800mリレー		予選敗退	
400mメドレーリレー		予選敗退	

■水泳 (女子)

50m自由形	櫻井 友香 (1I)	予選敗退	
〃	大橋 星花 (3I)	予選敗退	
100m自由形	櫻井 友香 (1I)	予選敗退	
100mバタフライ	大橋 星花 (3I)	予選敗退	

■空手道 (男子)

個人形	坂本 博孝 (2M)	1回戦敗退	
-----	------------	-------	--

■弓道

個人	土井 文晶 (3E)	予選敗退	
〃	石田 尚人 (3C)	予選敗退	
〃	諏江なつき (3C)	予選敗退	
〃	鈴木 聡恵 (2K)	予選敗退	
〃	横田 美月 (2K)	予選敗退	
〃	八木橋慧人 (2I)	予選敗退	

◎第67回東北学生陸上競技対校選手権大会

100m	庄司 陽 (5K)	予選敗退	
400m	坂本 淳 (4M)	予選敗退	
800m	永山 聖也 (5M)	予選敗退	
1500m	宮垣 佳和 (4M)	予選敗退	
400m H	神部 光 (4K)	第4位	
〃	熊谷 純樹 (4K)	予選敗退	
三段跳	鳥谷信太郎 (5K)	予選敗退	

走高跳	宮原遼太郎 (5M)	予選敗退	
棒高跳	松本 武尊 (5M)	予選敗退	
円盤投	小西 靖紘 (5C)	予選敗退	
やり投	佐藤 文啓 (4K)	予選敗退	

◎第10回福島県シングルスソフトテニス選手権大会

男子シングルス	佐藤 伸耶 (5E)	決勝トーナメント 1回戦敗退
〃	武藤 尚樹 (3K)	決勝トーナメント 1回戦敗退
〃	松本 恭彦 (3K)	予選敗退

◎第43回ゴーセン杯争奪戦ハイスクールジャパンカップ ソフトテニス2014 福島県代表選考大会

男子ダブルス	武藤 尚樹 (3K)	
	山口 敦士 (3M)	ベスト16
〃	松本 恭彦 (3K)	
	赤津 利也 (3E)	1回戦敗退
女子ダブルス	坂下和香奈 (3C)	
	石井 佑香 (2C)	1回戦敗退

◎第12回福島県高等学校春季ソフトテニス大会

男子団体戦	第3位
-------	-----

◎第93回全国高等学校サッカー選手権大会 福島県大会 1次大会

福島高専1-2 白河実業高校	
----------------	--

◎第96回全国高等学校野球選手権福島大会

2回戦 福島高専0-5 小高工業高校	
--------------------	--

◎第69回東北高等学校陸上競技選手権大会

男子200m	古和口 廉 (3K)	第6位	(全国大会出場)
男子400m	古和口 廉 (3K)	第3位	(全国大会出場)
男子4×400m R	準決勝敗退		(渡邊隆也 (3C)・鈴木陵太 (2E)・作山巧次 (3E)・古和口廉 (3K))

◎第68回東北高等学校卓球選手権大会

男子シングルス	安齋 正樹 (3K)	3回戦敗退
〃	矢内 智大 (3M)	2回戦敗退
男子ダブルス	安齋 正樹 (2K)	
	矢内 智大 (2M)	ベスト16
女子シングルス	大浦 悠 (3K)	2回戦敗退
〃	佐藤 泉 (2I)	1回戦敗退
〃	猪狩 栞菜 (2I)	1回戦敗退

◎第62回東北高等学校水泳競技大会

200m背泳ぎ	生方 歩高 (3M)	予選敗退
100m背泳ぎ	生方 歩高 (3M)	予選敗退

◎第31回福島県春季ジュニアシングルステニス選手権大会

U18男子シングルス	市川 希 (3K)	2回戦敗退
〃	宮嶋 豪 (3C)	1回戦敗退

U16男子シングルス	橋本 拓実 (1M)	第6位
U18女子シングルス	高橋なるみ (3K)	第9位

◎第31回福島県春季ジュニアダブルステニス選手権大会

U18男子ダブルス	菊池 洋輝 (3M)	
	市川 希 (3K)	ベスト16
〃	宮嶋 豪 (3C)	
	大竹 克也 (3M)	1回戦敗退

U16男子ダブルス	橋本 拓実 (1M)	第1位
	(ペアは他校選手)	(東北大会出場)

U18女子ダブルス	松田 歩華 (3C)	
	薄井小百合 (3C)	1回戦敗退
〃	高橋なるみ (3K)	
	嘉齊 滯 (3I)	ベスト16
〃	蛭田 愛未 (2C)	
	佐藤 亜希 (2C)	1回戦敗退

◎第36回東北ジュニアテニス選手権大会

U16男子ダブルス	橋本 拓実 (1M)	1回戦敗退
	(ペアは他校選手)	

◎第67回福島県総合体育大会 県大会

陸上競技 (男子)		
200m	古和口 廉 (3K)	第2位
		(東北総体出場)
400m	古和口 廉 (3K)	第3位
		(東北総体出場)
400m H	神部 光 (4K)	第4位
少年男子B砲丸投	佐藤 将富 (1C)	第6位
4×100m R		第5位
	(庄司陽(5K)・古和口廉(3K)・神部 光(4K)・鈴木陵太 (2E))	

■ソフトテニス競技

男子個人戦	千葉裕太郎 (2C)	
	鈴木 湊太 (2K)	ベスト16
〃	武藤 尚樹 (3K)	
	松本 恭彦 (3K)	3回戦敗退
〃	赤津 利也 (3E)	
	山口 敦士 (3M)	2回戦敗退
〃	宍戸 翔太 (3M)	
	大島 幸平 (3E)	2回戦敗退
〃	吉田 翔太 (1K)	
	小泉 亮太 (1C)	2回戦敗退
〃	坂本 隆晃 (3C)	
	荻野 康平 (3M)	1回戦敗退
女子個人戦	古川 千尋 (1M)	
	石井 佑香 (2C)	1回戦敗退

■テニス (男子)

【I部男子】		
シングルス	鈴木 喬也 (2C)	2回戦敗退
〃	岡崎 貴啓 (2E)	2回戦敗退
ダブルス	鈴木 喬也 (2C)	
	斑目 柊哉 (3C)	ベスト16

【I部女子】		
シングルス	蛭田 愛未 (2C)	ベスト16
ダブルス	蛭田 愛未 (2C)	
〃	佐藤 亜希 (2C)	2回戦敗退

【男子Ⅱ部】

シングルス 橋本 拓実 (1M) 第2位
" 蛭田 貴之 (1E) 2回戦敗退
ダブルス 橋本 拓実 (1M)
蛭田 貴之 (1E) 第1位

【女子Ⅱ部】

シングルス 高橋 朋世 (1K) 2回戦敗退
" 伊藤 有紀 (1I) 1回戦敗退
ダブルス 伊藤 有紀 (1I)
菊地 英里 (1I) 1回戦敗退

■卓球 (男子)

少年男子団体戦 初戦敗退
男子シングルス
安齋 正樹 (3K) 第1位
" 矢内 智大 (3M) 第3位
" 鯨岡 康佑 (3E) ベスト32
" 加藤 翔 (1E) ベスト32
" 渡邊 凌 (2M) ベスト32
成年男子1部
中丸 智貴 (5E) ベスト16

■卓球 (女子)

団体戦 ベスト8
女子シングルス
大浦 悠 (3K) 第2位
" 佐藤 泉 (2I) 第7位
" 高橋 百花 (1I) ベスト16
" 猪狩 栞菜 (2I) ベスト32

■剣道

男子トーナメント戦 1回戦敗退

■水泳 (男子)

50m自由形 安達 拓朗 (2E) 予選敗退
" 仲村 誉 (2K) 予選敗退

50m自由形 生方 歩高 (3M) 予選敗退
" 吉田 光義 (3M) 予選敗退
" 四倉 悠介 (3K) 予選敗退
" 松田 裕樹 (4E) 予選敗退
" 森下 英樹 (4E) 予選敗退
" 平木 義久 (5M) 予選敗退
" 山下 賢也 (5M) 予選敗退
" 横山 佳輝 (5M) 予選敗退
" 猪狩 聖人 (5E) 予選敗退
" 圓子 智弘 (5E) 予選敗退
100m自由形 吉田 光義 (3M) 予選敗退
" 松田 裕樹 (4E) 予選敗退
" 森下 英樹 (4E) 予選敗退
" 横山 佳輝 (5M) 予選敗退
200m自由形 坂本 亮太 (1M) 予選敗退
" 齊藤 圭紀 (2M) 予選敗退
" 山下 賢也 (5M) 予選敗退
400m自由形 坂本 亮太 (1M) 予選敗退
50m背泳ぎ 関根 健恭 (5M) 予選敗退
100m背泳ぎ 生方 歩高 (3M) 第3位
" 山下 秀 (4M) 予選敗退
200m背泳ぎ 仲村 誉 (2K) 第5位
50m平泳ぎ 圓子 智弘 (5E) 第9位
100m平泳ぎ 長谷川貴哉 (1K) 予選敗退
" 安達 拓朗 (2E) 予選失格
" 蒲生 博崇 (2E) 予選敗退
200m平泳ぎ 蒲生 博崇 (2E) 予選敗退
50mバタフライ
四倉 悠介 (3K) 予選敗退
" 山下 秀 (4M) 予選敗退
" 猪狩 聖人 (5E) 予選敗退

100mバタフライ
会田 優斗 (1K) 予選敗退
" 菊地 啓太 (2C) 予選失格
200m個人メドレー
齋藤 泰直 (1M) 予選敗退
" 会田 優斗 (1K) 予選敗退
" 菊地 啓太 (2C) 予選敗退
400mリレー 第19位
400mメドレーリレー 第17位

■水泳 (女子)

50m自由形 櫻井 友香 (1I) 予選敗退
" 若松 真純 (5I) 予選敗退
100m自由形 鈴木 彩那 (1I) 予選敗退
50m平泳ぎ 佐々木夏子 (4C) 予選敗退
100m平泳ぎ 小野 晶子 (4C) 予選敗退
50mバタフライ
大橋 星花 (3I) 第8位
400mリレー 第10位

◎第41回東北総合体育大会陸上競技

男子400m 古和口 廉 (3K) 第3位
※4×400m R
古和口 廉 (3K) 第1位
※県選抜メンバーとして出場

◎第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

男子200m 古和口 廉 (3K) 準決勝敗退
男子400m 古和口 廉 (3K) 準決勝敗退

◎第83回全国高等学校総合体育大会卓球選手権大会

女子ダブルス
大浦 悠 (3K)
佐藤 泉 (2I) 2回戦敗退

各種大会等の結果

■写真部

中通り桜撮影会 実施
ツインリンクもてぎカート撮影会(春・秋) 実施
いわき地区高等学校写真連盟撮影会(喜多方) 参加
ひたち国際大道芸撮影会 実施
フラワーセンター撮影会 実施
リンホフテヒニカ大判写真ワークショップ 参加
第4回フラガールズ甲子園スタッフ撮影 参加
小名浜花火大会撮影会 実施
第21回全国高校写真選手権写真甲子園2014東北ブロック決勝進出
海原陽菜子 (2M)、江尻乃亜 (2I)、安藤純奈 (1K)
第1回フラガールズ甲子園写真展
inいわき・ら・ら・ミュウ 開催
第2回フラガールズ甲子園写真展inアリオス 開催
フラガールズ甲子園Facebook写真展 公開
第4回いわき街なかコンサート写真展inアリオス 開催
フリーペーパー cab Vol1399 表紙へ写真提供
■吹奏楽部
第52回福島県吹奏楽コンクール 銀賞
■将棋部
第21回全国高等専門学校将棋大会
団体戦 矢部 幸祐 (5E) 予選敗退

佐波 克久 (4K)
比佐 健人 (4M)
個人戦
" 矢部 幸祐 (5E) 予選敗退
" 佐波 克久 (4K) 予選敗退
" 比佐 健人 (4M) 予選敗退
" 中澤 貴史 (3M) 決勝トーナメント1回戦敗退
第50回全国高等学校将棋選手権大会福島県大会
個人戦 大井川和貴 (1C) 決勝トーナメント1回戦敗退
" 野村 賢史 (1C) 予選敗退

■茶華道部

いわき学校茶華道連盟第36回合同発表会 参加

■演劇部

いわき演劇連盟地区発表会 参加

■山岳部

・笠ヶ森山登山(須賀川市岩瀬村) 実施
・関山登山(白河市) 実施
・安達太良山登山(二本松市) 実施
・蒲生岳登山(南会津郡只見町) 実施
・富士山登山 実施

■サイクリング部

・未来への道 1000km縦断リレー 参加
・第50回東北サイクリングフェスinふくしま 参加

■ラグビー部

・第7回東北地区高専ラグビー講習会 参加

■ソフトウェア研究部

・パソコン甲子園2014プログラミング部門 新人賞
・第61回NHK杯全国高等学校放送コンテスト
福島県大会いわき地区予選アナウンス部門 予選敗退
" ドラマ部門 予選敗退

■分子生物学愛好会

・第26回知能ロボットコンテスト2014
チーム1:堀越くまさん(N)
(ロボット名:菊花(Kicker))
(代表 小林 翠 (5C))
チャレンジコース決勝進出
優勝・最優秀技術賞
チーム2:堀越くまさんNona
(マシン名:ChibiR)
(代表 岩崎莉歩 (4C)、菅原佳奈 (4C))
テクニカルコース決勝進出
第3位・メカトロで遊ぶ会賞
共通製作グループ
齊藤玲子 (3C)、笹川桃佳 (2C)、清水和恵 (2C)、會川結衣 (1C)、金成留佳 (1C)

これからが観測シーズン

天文部顧問 内田 修 司

相手は 無限遠の距離にある星々

星空を見上げる、星座を追う、星雲・星団を望遠鏡で眺め、夜空を写真に撮るのも天文部です。

プラネタリウム用ドーム作り、ペットボトルロケット作りも天文部の活動です。

全国の高校天文部と情報を共有し、夜空の明るさ調査やISSの観測にも参加しています。

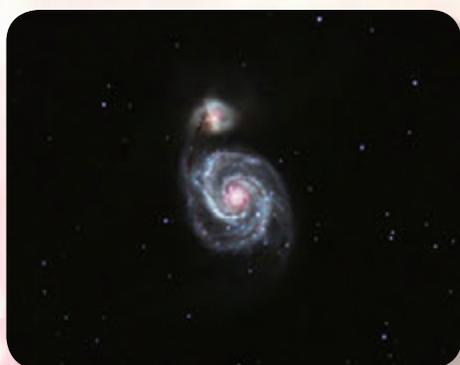


H α 太陽望遠鏡で撮影



iPhone+NDフィルタで撮影

最北の金環日食 (2012年5月21日 福島高専屋上 撮影 天文部)



M51、NGC5194 子持ち銀河 (りょうけん座)

地球から2300万光年離れた銀河

この銀河の直径10万光年

望遠鏡で眺めてもこんなに大きくは見えませんが、画像を200枚重ねると細部まで見えるようになります。

皆既月食 10月8日、天気が良ければ見られるはずです。



いわき市の夜の明るさ調査

- 17 ● 3等星
- 18 ● 4等星
- 19 ● 5等星
- 20 ● 6等星
- 21 ● 7等星
- 22 ● 8等星



天文部では部員を募集中です。



頑張ります，ソフトテニス部

ソフトテニス部顧問 伊藤 淳

暑い夏には汗まみれになり、陽の短い冬には時間を惜しんで、1年を通して熱心に練習に励み、真っ黒に日焼けした姿には、若いて素晴らしいものだのと、つくづく思っています。

勉学との両立を図りながら、熱心に練習に取り組んだ成果が、各種の大会の成績に表れています。ここ数年の戦績を振り返ってみますと、男子は東北高専大会での団体戦3連覇（H. 24～H. 26）をはじめとし、全国高専大会団体戦2位（H. 25）、個人戦3位（H. 24）、女子も東北大会3位（H. 26）と健闘しました。また、他のチームの選手とペアを組んでおりますが、今年の実業団杯・皇后杯全日本選手権大会に出場が決定しております。高体連関連の大会でも、昨年の新人戦の県大会では団体3位、今年の高体連ではインターハイ出場を惜しくも逃したものの、東北大会への出場を果たしています。

部員一人ひとりの頑張りは勿論ですが、上級生が意欲を持って部活動に取り組み、下級生の指導にあたっていた成果が表れていると思われまます。チームが強くなると、参加できる大会も増え、より強豪のチームとの対戦ができるようになります。また、強化練習会への参加や他校との合同練習の機会も増え、より充実した活動が可能となりました。また、クレーコートからオムニコートに改修され、天候をほとんど気にすることがなく、市営コートとは違って練習に打ち込むことができ、部活動の環境が充実したことも要因に挙げられます。

秋の気配が深まり、新人戦の季節となりました。今年も新チームとしての活動が始まりました。エネルギーにあふれて練習に打ち込む部員たち。ことしはどのようなチームに育ってゆくのでしょうか、楽しみです。

大会には多くの保護者の方が応援に駆け付けて下さり、暖かい声援を送っていただいております。心から感謝申し上げます。

新任教職員紹介



一般教科・国語科 古田 正 幸

一般教科(国語)の古田です。『源氏物語』などの、日本の平安朝文学を専攻しています。古典の中には、今に繋がる考えや表現の一方で、異なる考えも描かれます。異なる文化・価値観に触れ、理解すべく努めること、そして想像力を養うこと。いずれも人の成長に大切なことです。私自身も、研究・教育を通じ、みなさんと一緒に成長していきたいと思えます。研究室は低学年棟の5階です。講義内容はもちろん、文章の書き方、古典に関する質問などございましたら、いえ、質問などなくとも気軽にお訪ねください。これからよろしくお願いします。



一般教科・物理科 小 田 洋 平

本年10月より一般教科・物理科の教員として着任しました小田洋平と申します(「小田」と書いて「こた」と読みます)。出身は北陸ですが、学生時代の9年間を仙台で過ごし、その後の1年半はつくばの研究機関に勤めていたことからこちら側にも馴染んでいるつもりです。

着任早々のタイミングで3名の日本人が「青色LEDの発明」という実学的な研究成果によってノーベル物理学賞を受賞しました。このことから工学の中での物理の重要性が年々高まっていると感じており、今後はその次代を担う学生の教育に役立てればと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



電気工学科 橋 本 慎 也

今年4月に電気工学科に着任いたしました橋本慎也です。私は福島県いわき市の出身で本校の卒業生です。時代の変化を経て、私が学生生活を送っていた頃と比べて本校の景色と雰囲気は少しだけ変わったように思います。しかし、いつの時代も学生が抱えている課題の大変さと悩みの大きさは変わらないと思います。皆さんが抱えているその問題を“ちょっとだけ”年上の先輩と一緒に解決していきましょう。

いつも明るく楽しく少しだけ真面目で笑顔のたえない授業と研究室を目指していきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。



建設環境工学科 金 澤 伸 一

本年度4月から建設環境工学科教員として福島高専に赴任しました。これまで民間の研究所、大学教員として研究・教育を行ってきました。学生生活はあっという間ですが、学生のみなさんは、人との繋がりを大切にしてください。そして失敗を恐れず、何事にも前向きに立ち向かってください。こういった精神はどのような職に就こうとも大切だと思います。しかし、さまざまなチャンスを掴むためには、それを掴む努力と実力も必要だと思えます。そういったことをしっかりと勉強してください。



コミュニケーション情報学科 若 林 晃 央

4月にコミュニケーション情報学科に着任致しました若林晃央と申します。経営学関連の科目を担当しております。

私の専門分野は組織論ですが、組織は現代社会に特有のものではなく、人類の文明が成立して以降、長い歴史と共に盛衰を繰り返してきました。私の組織への関心のきっかけは『三国志』で、歴史、国家の経営、精鋭部隊、組織の経営術、と関心を広げてきました。みなさんも何か好きなことを見つけ、関心を広げ、また深め、最終的には得意分野と呼べる領域を形成して頂きたいと思えます。よろしくお願いいたします。



コミュニケーション情報学科 安部 智博

9月1日付けでコミュニケーション情報学科に着任しました安部智博と申します。専門は、財務会計で会計規制をメインに研究しております。会計学関連の科目を担当することになりました。出身は大分県大分市です。着任以前は、大学院生であり、福島高専が教員を始める初めての場所となりました。まだ、福島のことや福島高専のことなどわからないことが多いですが、学生に負けないくらい、福島高専でいろんなことを学び、成長していきたいと思っています。これからよろしくお願いいたします。



事務部長 堀川 俊行

本年4月にお隣の茨城高専から事務部長として参りました堀川です。高専の勤務は、沼津高専を皮切りに、高専機構本部、茨城高専、本校と4ヶ所目で11年になります。過去に大学勤務の経験もありますが、高専の良いところは、どこの高専でもそうですが、構内で学生・教職員・外来者を問わず、どなたでも「お早う御座います」、「今日は」とあいさつが交わされるところです。このことは、高専を良く知らない方は口を揃えてびっくりしておりますし、一方で褒めて頂いております。これから私も、積極的に「あいさつ」を交わして行きたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



総務課長 山本 直之

本年4月1日付で長野高専総務課長より総務課長に着任いたしました山本です。お茶の水女子大学に約26年間、長野高専に約3年勤務し、この度、福島高専へ異動してきました。お茶の水女子大学では、途中、放送大学への出向を含め、出納、契約、共済、人事労務、入試等の業務に従事してきました。大学を出て、二校目ですが、学校によって業務の進め方、考え方、特徴等、随分違うなと感じています。

不慣れな部分も多々ありますが、これまでの経験を生かして、福島高専のために尽力したいと考えていますので、よろしくお願いいたします。



総務課課長補佐（財務担当） 櫻井 重範

10月1日付で茨城大学より赴任いたしました櫻井です。

このたび、福島工業高等専門学校で勤務をさせていただける機会を頂き、嬉しく思っております。

茨城大学では、会計系を中心にいろいろな職種を経験させていただきましたが、これまでの経験を活かしながら、一日でも早く、福島高専やいわき市の環境に慣れ、皆さんのお役に立てるよう頑張りたいと思います。

ご迷惑をおかけすることも多々あるかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。



総務課調達係主任 渡邊 康

福島大学への出向を経て4月に赴任いたしました。

約3年ぶりに福島高専へ戻ることができ大変うれしく思っております。夏は涼しく、冬は暖かく、少し走れば海があり、一年中釣りができる。あらためていわきの良さを感じている毎日です。

大学では財務課に所属し高専とは違った面から財務業務を学ぶことができました。本校でも再び調達係に戻ることとなりましたので、大学で学んだことを生かし、少しでも福島高専のお役に立てるよう頑張りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。



総務課施設管理係 嶺岸 知輝

平成26年4月1日付で施設管理係に採用となりました嶺岸と申します。

3月末までは仙台高等専門学校建築学科に在学しており、教室や廊下で学生の方々とすれ違ふと、自分が半年前まで学生であった事を少し懐かしく思います。学生から職員になり立場は変われども、高専という良い環境にいれることに日々喜びを感じております。社会人1年目としまして何かと不慣れな点がありますが、校内での生活をより良くする為に尽力しますのでどうぞよろしくお願いいたします。



平成26年度 ミニ研究発表会

教務主事補 押手 茂 克

9月25日（木）に、本校第一体育館を会場として、第9回となるミニ研究発表会を開催しました。

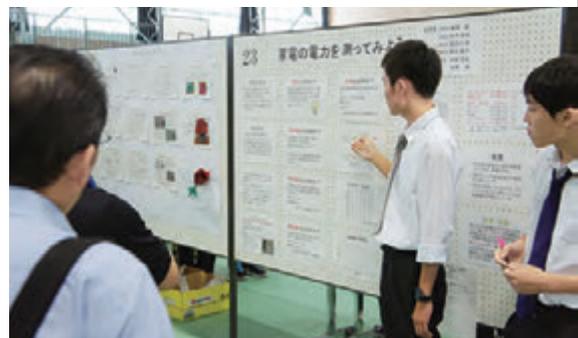
ミニ研究は、本校2年生を対象に平成18年に導入され、本年で9年目となりました。授業目的「教員の設定したテーマに基づいて研究し、低学年のうち自分で調べる・考える・文章にまとめる・報告する・人前で発表するという過程を経験し、個々の能力を高める」は開設当初より一貫して変わらず、また、学生は自分の所属する学科にとらわれずに、自身の興味や問題意識に基づいてテーマを選択して半年（前期）の研究に取り組みさせることも一貫して行ってきました。これにより、大学4年生で触れる研究を、本校2年生（高校2年生相当の年代）から触れさせる早期導入教育により、他学科の専門分野を通して視野を広げ、柔軟な発想を持つ人材の育成を目指した本校の特色ある教育の一つとしております。更に、所属する学科以外の学生との共同作業、指導教員等との研究内容の話し合いなどを通し、コミュニケーション能力の向上や人前に出て活動する際の礼儀や常識を身につけることも期待しています。

今年度は、下記に記載しました40のミニ研テーマで募集を行い、学生はそれぞれのミニ研テーマに分かれて一生懸命に取り組みました。その姿勢は、時間を延長して放課後まで取り組む状況や、夏休み期間中に登校して取り組む状況から伺えました。

研究成果を披露するミニ研発表会では、多くの来場者にお越しいただき、盛況のうちに終了しました。発表を前半と後半の2つに分け、発表時間を各80分間としていることから、1回の発表は15分以内を目安として学生を指導しておりますが、当日の発表状況調査データから、本校教員だけの聴講でも平均7人（多い場合は18人）の聴講を受けており、学生は限られた時間内で自分の研究成果を積極的に議論していたと言えます。2年生は、各学科において本格的な専門の実験・実習教育に入りだした学年ではありますが、「真面目さ」、「素直さ」、「継続する姿勢」、そして「探究心」が今回の研究成果と発表会状況を生み出したと思います。この「探究心」は、今後の実験・演習から卒業研究への専門教育に活かしてもらえらるることと思います。本年度より、この状況を実際に見て来年度の参考にして頂きたいため、原則、発表会のみ1年生も参加といたしました。ミニ研は、来年で10年と節目の年になりますが、着実に学生の資質を伸ばしており、次年度も十分な成果と積極的な発表会になると確信しております。

発表会には、平日の開催にもかかわらず多くの保護者の皆様にご来場いただき、聴講していただきました。また、多くの教職員の方々にも聴講と評価に参加していただきました。そして何より、根気強く熱心にご指導いただきましたミニ研究担当の先生方のお力添えにより、無事に発表会まで終了することができました。

皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。



平成26年度 校内体育大会

学生主事補 木次谷 聡

平成26年9月29日、福島高専校内体育大会が行われました。今年度も爽やかな秋晴れの下で盛大に開催することができました。競技にはサッカー、バスケットボール、ソフトボールなどの球技系だけでなく、スポーツチャンバラ、大縄跳び、障害物競争など技能系の種目も含まれ全部で9種目行いました。どの競技も経験者や女子に対するハンディキャップや特別ルールを適用することで、誰でも競技を楽しめるように工夫されていました。大会最後の目玉競技である学科対抗リレーでは、全学生がグラウンドに集結し大いに盛り上がりました。各種目の成績順位に応じて得点を加算したところ、クラス対抗では1年電気工学科、2年建設環境工学科、3年機械工学科、4年電気工学科、5年電気工学科が優勝し、学科対抗では電気工学科が総合優勝しました。

本大会の企画運営は、学生会の体育大会実行委員会（委員長：4年物質工学科 佐藤駿介君）と各クラスの体育委員が中心となり、学業やクラブ活動の合間をみて早い時期から準備を進めてきました。閉会式では「無事に開催できたことに对学生のみなさんに感謝しています。運営上の細かい反省点は来年度にしっかり引き継ぎ、改善したいと思います。」との委員長挨拶がありました。



平成26年度 行 事 予 定 (後期)

11月

- 1日 (土) 磐陽祭準備 前夜祭
- 2日 (日) 磐陽祭
- 8日 (土) ~9日 (日)
全国高専デザインコンペティション
2014 in やつしろ
(熊本高専主催/八代市総合体育館大ホール)
- 12日 (水) 第3回TOEIC-IP試験 (3年・専1年)
- 18日 (火) ~12月2日 (火)
後期中間試験期間
- 23日 (日) 全国高専ロボットコンテスト2014
(両国国技館)

12月

- 3日 (水) 学生会役員選挙
- 6日 (土) 専攻科社会人入試
- 17日 (水) 集会、教室整備
- 23日 (火) 閉寮 (10:00)
冬季休業開始 (1月6日 (火) まで)
- 27日 (土) 学校閉鎖期間 (1月4日 (日) まで)

2015年

1月

- 4日 (日) ~9日 (金)
ラグビー全国大会 (神戸市)
- 6日 (火) 閉寮 (13:00)
- 7日 (水) 授業開始 (火曜振替授業)
- 14日 (水) 専攻科特別研究中間発表会 (1年)
- 15日 (木) 学習到達度試験
(工学系4学科3年生対象)
基礎学力標準試験 (数学)
(工学系4学科の1、2年生対象)
他学生は臨時休講
- 17日 (土) 推薦入試

1月

- 24日 (土) 卒業研究発表会 (電気)
- 24日 (土) ~25日 (日)
全国高専英語プレゼンテーションコンテスト
(国立オリンピック記念青少年総合センター)
- 28日 (水) 学生総会
専攻科特別研究最終発表会 (2年)

2月

- 5日 (木) ~12日 (木)
後期期末試験
- 15日 (日) 学力入試
- 16日 (月) 学生臨時休業
- 20日 (金) 後期授業最終日
月曜振替授業
- 23日 (月) ~26日 (木)
補講期間
- 24日 (火) 卒業研究発表会 (機械) (コミ)
- 25日 (水) 卒業研究発表会 (コミ) (物質) (建設)
- 26日 (木) 卒業研究発表会 (物質) (建設)
- 27日 (金) 再試験期間 (3月5日 (木) まで)
寮送別会

3月

- 2日 (月) 終業式
- 5日 (木) 地域フォーラム
専攻科特別研究公開発表会 (2年)
- 20日 (金) 卒業証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
修了証書授与式
(いわき芸術文化交流館アリオス)
- 21日 (土) 閉寮 (10:00)

入 学 試 験 の 日 程

【本 科】 ● 推薦による選抜

- ・ 推薦入学願書受付 1月5日 (月) ~7日 (水)
- ・ 推薦入試 1月17日 (土)
- ・ 合格内定通知発送 1月22日 (木)

● 学力検査による選抜

- ・ 願書受付 1月30日 (金) ~2月4日 (水)
- ・ 学力入試 2月15日 (日)
- ・ 合格発表 2月20日 (金)

【専攻科】 ● 社会人特別選抜

- ・ 願書受付 11月25日 (火) ~28日 (金)
- ・ 学力検査と面接 12月6日 (土)
- ・ 合格発表 12月11日 (木)

編 集 後 記

今回の収録記事には、「校長就任挨拶」をはじめ、新たに着任された多くの教職員の方々の、着任のご挨拶が掲載されています。福島高専の発展のためにご尽力賜りたく存じます。

また、学生の「海外インターンシップ実施報告」、「English Camp参加報告」の記事があり、これらをはじめとする多数の「海外研修」の実績は、学生の幅広い活躍の状況と、急速に進む「高専の国際化」を明示するものとなっています。学校全体として、国際的に活躍できる人材の育成に邁進していく必要性が痛感されます。

広報委員長 根岸嘉和

